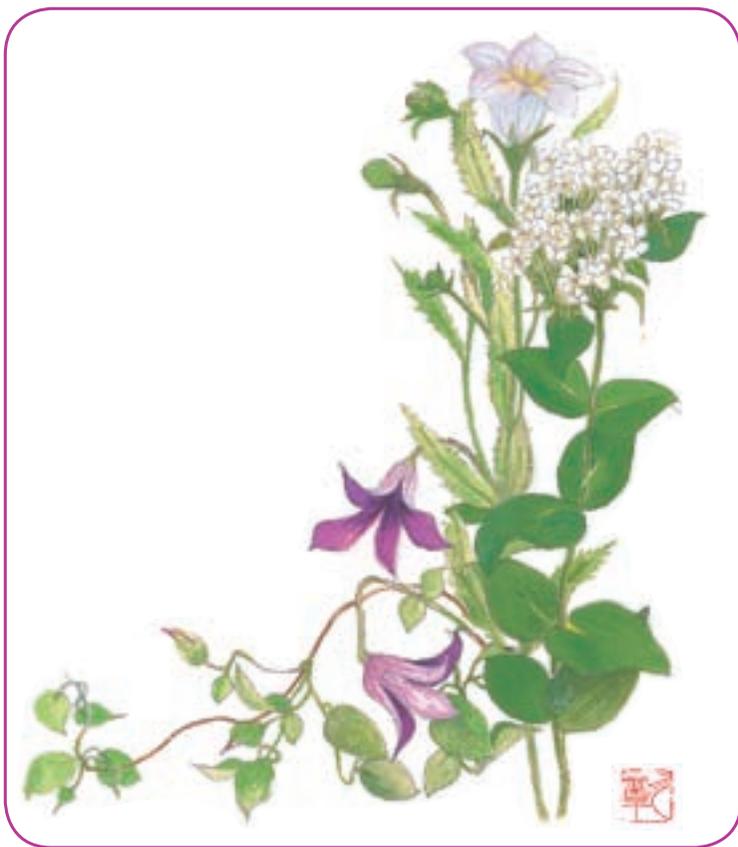


大阪医科大学学報

第89号 平成23年8月
(インターネット版)



夏を彩るお茶花 (ベル鉄線、なでしこ、ききょう)

◆目

新任教授紹介	2
受賞等について	3
永年勤続表彰	4
病院看護部	7
平成23年度科学研究費助成事業交付内定	8
日米合同悪性腫瘍シンポジウム	12
学位記授与式	13
平成22年度事業報告と決算について	14
中山国際医学医療交流センター	22
医学会春季学術講演会	27
学内行事	28

次◆

看護専門学校	30
行事日程	31
寄付金報告	32
主要会議報告	34
市民公開講座	38
医療安全対策室	39
感染対策室	40
大学安全対策室・病院ボランティア	41
保健管理室からのお知らせ	42
歴史資料館・俳句	44
須磨久善先生の公開講座開催	45

新任教授紹介

新任教授のご紹介—一般・消化器外科学—

この度、外科学講座一般・消化器外科学教室を担当させて頂くことになりました。板谷博之教授、岡島邦雄教授、谷川允彦教授について4代目となり、伝統ある教室を主宰させて頂くことに、その重責を痛感しております。

私は昭和52年に本学に入学致しましたが、その直後の4月に板谷教授の訃報を耳に致しました。昭和58年卒業後は本学にて2年間の外科研修を受けましたが、その際、岡島教授にも6か月間のご指導を賜りました。厳しいながらも人間味溢れ、今日の私の消化器外科に対する姿勢はその頃に培われたものと深く感謝致しております。その後、私は京都大学、和歌山県立医科大学での外科修練において、胃・大腸癌手術に加えて、肝癌に対する肝拡大切除を前提とした術式や肝予備能の外科的評価、胆嚢癌や肝門部胆管癌を中心とした胆道手術、および、膵頭部癌の切除後の再建術式などの肝・胆・膵疾患に対する治療に立脚した外科手術や臨床研究を行う機会を頂きました。

今後、一般・消化器外科学教室を発展させるためには、“外科医療に責任を持つ”という姿勢が不可欠だと思います。つまり患者様から信頼される良質な「標準治療」の確立が求められるわけです。そのためには、まず歴史ある過去の膨大な症例からデータベースを構築し、Retrospectiveな解析を行います。すると、手術や治療法に必ず疑問点、問題点が見つかりますから、その点を前向き試験や無作為抽出比較試験にて解決し、常識にとらわれないEvidenceに基づいた外科治療を実践することが必須と考えています。そのためには症例数の増加が必要で、1例でも多くの症例を紹介していただくように努力しなくてはなりません。つまり、病・診連携、病・病連携などの地域医療連携を強化することが求められ、結果的に実収入の増加にも繋がると思えます。

何分経験が浅く、未熟な部分も多々ありますが、伝統ある一般・消化器外科学教室と本学の更なる発展のため、粉骨砕身努力する所存ですので、よろしくご指導、ご支援頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



外科学講座
一般・消化器外科学教室
内山 和久 教授

昭和31年 4月25日生
昭和58年 3月 大阪医科大学卒業
昭和58年 6月 大阪医科大学にて研修
昭和60年 6月 京都大学第2外科 非常勤医員
昭和61年 4月 京都通信病院外科 医員
昭和63年 4月 和歌山労災病院 医員
平成3年 2月 和歌山県立医科大学外科学第2講座 助手
平成14年 3月 和歌山県立医科大学外科学第2講座 准教授
平成16年 7月 UCLA Liver and Pancreas Transplant Centerへ
県費留学(6か月間)
平成20年 1月 和歌山県立医科大学感染制御部 部長兼任
平成23年 6月 大阪医科大学 教授(一般・消化器外科学教室)

新任教授のご紹介—小児看護学— 泊 祐子 教授



この度、平成23年4月1日付で看護学部の教授に就任しました。大阪は大学卒業後、初めて勤務した地でもあり大変懐かしく思っています。

私の専門は、小児看護学・家族看護学です。看護師として、NICU・小児病棟で勤務しました時の経験や教員になり学生の実習指導の折に出会うご家族との経験から家族看護の必要性を痛感しました。家族員の誰かが病気をすると、家族全体が揺れたり、誰かの病気に付随して他の問題が発生し、さらに家族が困難に陥ることも多く見受けました。看護実践の現場の方や研究者仲間と家族看護学の研究に取り組んで10数年が経ちます。ちょっとした看護職の助言が家族への大きな支援になることも多く、こちらの大学でも、実践現場の方々と共に家族看護の教育・研究ができればと願っております。

現代の看護職には専門職としてのキャリアアップ・卒後教育が必要であり、看護学部がその一端を担えるのではないかと考えております。看護学部のこれからの発展に貢献できるよう微力ながら全力を尽くしたいと存じます。ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

【略 歴】

昭和52年3月：徳島大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程卒業	平成10年4月：滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻 教授
昭和52～57年：淀川キリスト教病院 看護師	平成15年3月：大阪府立看護大学大学院博士後期課程修了博士(看護学)
昭和59年3月：大阪市立大学大学院生活科学研究科博士前期課程修了	平成16年4月：岐阜県立看護大学看護学部 教授
昭和59年4月：奈良文化女子短期大学衛生看護学科 講師	平成18年4月：岐阜県立看護大学大学院看護学研究科後期博士課程 教授
昭和62年4月：滋賀県立短期大学看護学科 講師	平成23年4月：大阪医科大学看護学部 教授
平成4年4月：滋賀県立短期大学看護学科 助教授	
平成7年4月：滋賀医科大学医学部看護学科 助教授	

受賞等について

第45回 日本成人病(生活習慣病)学会 優秀演題賞受賞
 予防・社会医学講座
 衛生学・公衆衛生学教室 大学院 中山 紳 先生

開催日：平成23年1月15日(土)～16日(日)
 会 場：東京都・都市センターホテル

演題：「大学健診での腹囲、内臓脂肪量の二次元区分による生活改善意思および検査指標の検討」



永年勤続表彰

平成23年度 永年勤続表彰

日 時：平成23年6月2日（木） 10時～
35年勤続表彰 9名
20年勤続表彰 26名
場 所：別館3階 大学院多目的講義室

勤続35年

岡山 勝良（中央放射線部・技師長）	濱田かほる（物流センター・事務員）
崔 照子（図書館課・事務員）	三科 博美（病院看護部・准看護師）
竹村喜一郎（薬剤課・担当課長）	南 和子（研究機構・事務員）
豊田 瑞恵（メディカルトレーニングサポートセンター・看護副部長）	村上るみ子（医事課・事務員）
中村 桂子（眼科・副主幹）	

（50音順）



勤続35年表彰者

勤続35年表彰を受けて

眼科 副主幹 視能訓練士 中村桂子

この度9名の職員と一緒に勤続35年の表彰を受けることができました。

私が眼科に入職したのは昭和51年で、視能訓練士という職種自体まだ社会的な認知度が低い時代でした。眼科自体は牧内教授の時代から地域での評価は高く、患者様から「大阪医大の眼科は有名だよ」とお声をかけていただくたびに、身が引き締まる思いでした。

当時、病院の建物は5号館までであり、その後すぐに6号館建設が始まりました。そこにはリハビリテーションセンターができるということで、視能訓練士もリハビリの一つの職種と理解されたようで、眼科所属でありながら、リハビリテーションセンター内にも、視能訓練室が設けられました。その後7号館が出来るまでの20年近く、リハビリテーションセンターの部屋も午後から使わせていただき、小児の弱視や斜視の検査訓練を行っていました。実際の仕事の内容はリハビリとは少し違っていたのですが、それが一つの契機になったのか？大阪医大の眼科は視覚障害者のロービジョンケアという領域では他の病院に先駆けて、力を注ぐようになり、今では地域の関連施設との連携を取りながら、スムーズに視覚障害者へのケアができるようになりました。

ドクターも私たちを検査員扱わず、ともに働く仲間として、外来の仕事は勿論、論文の読み方、読

んだ論文のカードの作り方、学会発表、スライド作り、論文の書き方まで手取り取り指導していただきました。そのお陰で、いつのまにか、学会発表や論文の執筆なども通常業務の中に位置づけられ、精力的な仕事ができる基盤ができました。スウェーデンやメルボルンなどでの国際学会にも参加させていただきました。20数年からパソコンによるデータ管理の必要性が出てきて、まだまだパソコンが普及していない頃から必死で取り組みました。近年、検査機器がほとんどパソコンを扱えないと検査できないような時代になり、時代の流れを感じます。視能訓練士はますます、求められるようになり、現在は常勤が8名となりました。

病院機能評価を受ける頃からの病院の変化は目にみはるものがあり、プライバシーの問題を重視したリフォームを行ったり、院内には絵画や観葉植物が飾られ、癒しの空間ができました。トイレやゴミ箱なども清潔になり、職員研修の充実など恵まれた環境で働く事が出来ていることに感謝しています。

しかし、今後、不安な事は電子カルテ化が進む中、患者様と対話をする事がますます、少なくなり、特に視覚障害のある方々などにとって、声かけやスキンシップが減る可能性が高くなることです。「心のケア」がおろそかにならない医療を守っていきたくと願っています。これからも少しでもお役に立てるように頑張りたいと思っています。

勤続20年

相谷 文江 (物流センター・用務員)
荒屋 千晶 (医事課・事務員)
石浦 基文 (中央放射線部・主任)
泉 久美子 (病院看護部・看護補助)
太田 知恵 (医事課・事務員)
奥 英弘 (眼科学・診療准教授)
梶本 宜永 (脳神経外科学・講師)
譽田 治子 (医事課・事務員)
佐々谷智子 (病院看護部・看護補助)
重松 恵子 (医事課・主任)
玉井 浩 (小児科学・教授)
出口 千尋 (病院病理部・臨床検査技師)
手塚 街子 (診療情報管理室・事務員)

中島 幹雄 (整形外科学・准教授)
中谷 尚文 (庶務課・課長代理)
畠村 朋子 (中央検査部・臨床検査技師)
濱口 朝子 (病院看護部・看護補助)
濱田 恵子 (病院病理部・事務員)
林 明美 (中央放射線部・事務員)
藤岡 俊吾 (人事課・課長代理)
見邨 洋子 (医事課・事務員)
森下美智子 (栄養課・調理師)
森本 純司 (実験動物センター・講師)
矢野 貴人 (看護学部看護学科・教授)
山口 愛 (医事課・事務員)
山本 大助 (医学情報処理センター・准教授)
(50音順)



勤続20年表彰者

永年勤続20年表彰を受けて

実験動物センター 講師 森本純司

平成3年4月に本学に赴任してはや20年が経ちました。この度、永年勤続35年、20年の方々35名と共に表彰していただき、ありがとうございました。20年を振り返ってみますと、赴任当初はまだ雑犬が使われていた時代であり、動物実験実施に関してもそれほど厳しいものでもありませんでした。皆さんからは『動物舎』と呼ばれていましたが、自然に『実験動物センター』と呼んでもらえるように変えていこうと職員ともよく話したものです。2年後に報告書を発行し、平成9年にはLACニュースを発行致しました。当時は今程ニュースが出されておらず、先駆的なところがありました。また、動物実験反対派の人物が侵入を企てたことがありました。幸い、他大学からの情報で侵入を未然に防ぐことができ、この分野でのセキュリティと情報網の大切さを実感致しました。

研究面ではピペット一つないところからのスタートでしたが、CO₂フランシスの購入により、今まで培って来た培養実験を続けることができました。私にとって最大の成果は、癌転移研究に有用なマウス乳癌細胞株 (BJMC3879) を樹立できたことであり、それにより多くの共同研究を進めることができました。この細胞はこれからも多くの方に活用していただけるものと信じています。教育においては、セミナーや実習、PBL等を通して学生と接することができました。本来なら、教育、研究、施設運営とバランス良く活動しなければならないところですが、目まぐるしく変化する実験動物界において、他大学に遅れをとらないように、また、利用者により良い施設づくりをめざすあまり、どうしても施設運営に重きを置くようになっていました。赴任当初から掃除ばかり強要してきましたが、職員の皆さんはそれによく答えてくれました。また、チームワークも大切にしてきました。センターを円滑に運用する為には最も重要なことです。

赴任当初にくらべたら、多くの改善・改修がなされ、一昨年には第2研究館2階部分をSPF室ならびに人的スペースとして改造していただきました。

築50年という実験動物センターを新しく建替えられなかった事は、私の努力不足であり反省すべき所ですか、どこかに「古くても使いやすい施設が出来る」と言う気持ちがあったかもしれません。

実験動物センターが他教室と異なるのは、共同実験施設であり、上司が4年毎に替わるという事でした。私がこの職場で20年もの長きにわたって勤められたのも、歴代センター長に恵まれたこと、そして職員の皆さんの頑張りがあってのことです。改めて感謝申し上げます。

動物実験が今より厳しくなっても、緩くなる事はありません。本学で私に残された年数はあと数年、動物実験の適正化を確保する為に、纏めるものは纏め、しっかり自己点検・評価し、外部検証に向けて取り組む所存です。

今後とも御指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



■災害支援ナースとして被災地で活動を行って

救急外来 救急看護認定看護師 濱田 恵美

はじめに、このたびの東日本大震災により、被災を受けた方々にお見舞い申し上げます。

私は、4月8日～12日、大阪府看護協会から派遣された災害支援ナースとして宮城県石巻市の小学校で活動させて頂きました。4月8日の夜、東京にある日本看護協会に集合しバスで宮城県看護協会に入りました。宮城県看護協会からは、派遣される避難所や病院に分かれて、さらにバスを乗り継ぎ現地に入りました。目の前には、連日報道されている風景が広がっていました。「私に何ができるのだろうか…。」そんな不安な思いを抱えながら、「もうこれ以上被災者さんを傷つけない。できることからしていこう。」と自分に言い聞かせ、派遣先の小学校に到着しました。活動の拠点である体育館に入ると、「御苦労さま、ありがとう。」と被災者の方々から声を掛けて頂きました。この小学校には校舎や体育館に分かれ、約600名の方が避難されていました。前任者から申し送りを受け、室内環境の観察、要介護者、高齢者や乳幼児の把握を行いながら巡回しました。巡回で得た情報をもとに支援ナースや常駐するボランティア保健師、介護士と情報交換を行い、問題点を抽出し看護活動に繋げました。



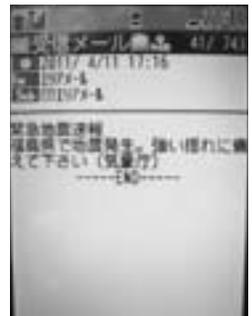
発災から約1ヵ月のこの時期は、感染症予防、精神的援助が必要になります。しかし未だライフラインは電気のみ復旧した状態で、手洗いはアルコール消毒で対応されていました。そこで、被災者が主催する会議に参加し、手指消毒の強化、吐物や水様便の処理について説明を行い、被災者自身で予防、対処が行えるよう衛生面での指導を行っていきました。

避難所内に設置された診療所では、DMATや医師会から派遣された医療スタッフが診察を行いました。医療者間の連携を強化し、受診者の把握を行い継続した看護が行えるよう、ミーティングの充実を図りました。精神的援助については、校舎や体育館に分かれて構成されている班長（被災者）の協力を得て気になる方を把握し、精神科医師に巡回を依頼しました。また状況により個室を提供しプライバシーの確保に努めました。

派遣中に行ったことは、1日の活動計画や救護所の医療チームとの連携を確立し、後任者に引き継いだこと、そして、支援ナースがすべて行う援助から、被災者の自立に向けた援助へ移行していったことでした。

今回の派遣では、限られた医療機器、物品で、最良の看護が提供できるよう工夫致しました。夜間の急病者の対応についてもバイタルサインや症状などの観察から緊急度、重症度を判断し対応を行いました。また現地では震度5弱の地震を体験、津波警報も聴きました。スタッフや家族からは心配のメールがたくさん届きました。私が災害支援ナースとして行かせて頂いた背景には、看護部長をはじめ、部署のスタッフ、家族の協力があつたからこそでした。この経験を生かし、災害拠点病院の救急看護認定看護師としての役割を担い、また委員会活動を通して災害看護の知識、技術の向上に努めたいと思います。

今回の派遣では、限られた医療機器、物品で、最良の看護が提供できるよう工夫致しました。夜間の急病者の対応についてもバイタルサインや症状などの観察から緊急度、重症度を判断し対応を行いました。また現地では震度5弱の地震を体験、津波警報も聴きました。スタッフや家族からは心配のメールがたくさん届きました。私が災害支援ナースとして行かせて頂いた背景には、看護部長をはじめ、部署のスタッフ、家族の協力があつたからこそでした。この経験を生かし、災害拠点病院の救急看護認定看護師としての役割を担い、また委員会活動を通して災害看護の知識、技術の向上に努めたいと思います。



平成23年度科学研究費助成事業交付内定

平成23年度科学研究費助成事業交付内定について

平成22年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した182件の新規研究計画に対し新規33件、継続57件の合計90件の内定がありました。(平成23年5月2日現在)

研究種目	新規応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)(継続の研究領域)	5	1	0	1
特定領域研究(継続領域)	1	0	0	0
基盤研究(A)一般	1	0	0	0
基盤研究(B)一般	12	1	2	3
基盤研究(C)一般	97	18	36	54
挑戦的萌芽研究	12	1	3	4
若手研究(A)	1	0	0	0
若手研究(B)	53	12	14	26
研究活動スタート支援	0	0	2	2
合計	182	33	57	90

(注)研究活動スタート支援については、平成23年度公募中のため継続の課題のみ記載内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

《科学研究費助成事業(科学研究費補助金)》

■新学術領域研究 研究領域提案型

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
ATP駆動の回転分子モーターを用いたATP加水分解の1分子熱力学	物理学	助教	古池 晶		1,800	1,800	0	0	0

■基盤研究(B)一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
Tregバンク(CD28SA+幹細胞共培養)免疫寛容+MF1導入:移植腎永久生着	泌尿器科学	教授	東 治人	*	2,900	2,600	2,200	0	0
遺伝子破壊メダカとニワトリBリンパ球細胞を使用した化学物質の複合影響評価	衛生学・公衆衛生学	教授	河野 公一	*	1,300	1,300	0	0	0
腫瘍選択的高LET高RBE粒子線治療による治療抵抗性グリオーマ幹細胞制圧の試み	脳神経外科学	准教授	宮武 伸一		7,000	6,100	1,300	0	0

■基盤研究(C)一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
糖尿病女性が安全に安心して妊娠出産育児に臨めるためのケアプログラムの開発と評価	看護学科	教授	田中 克子	*	1,300	0	0	0	0
ピリドキサル・キノン酵素反応の多元的エネルギー解析	生化学	教授	林 秀行	*	1,300	0	0	0	0
酵素の立体構造に基づくスフィンゴ脂質代謝制御の分子機構に関する研究	生化学	講師	生城 浩子	*	1,200	0	0	0	0
ミトコンドリアから運搬されサイトゾル含硫小分子に使われる硫黄の運搬経路の解明	生化学	講師	中井 由実	*	800	0	0	0	0
性ホルモンによる卵管上皮線毛運動の調節機構の研究	生理学	准教授	中張 隆司	*	900	0	0	0	0
人工血管管腔狭窄における機序の解明とキマーゼ阻害薬を中心とした治療法の探索	薬理学	講師	金 徳男	*	1,400	0	0	0	0
膵臓癌細胞由来膜/核内タンパク質-自己抗体結合体を標的とした膵臓癌特異抗原の検索	一般・消化器外科学	講師(准)	宮本 好晴	*	1,000	0	0	0	0

平成23年度科学研究費助成事業交付内定

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
モデルマウスを用いた劇症1型糖尿病治療法の開発	内科学I	教授	花房 俊昭	*	900	0	0	0	0
劇症1型糖尿病患者血清の蛋白質間相互作用解析を用いた新規インスリン様分子の同定	内科学I	講師(准)	寺前 純吾	*	800	0	0	0	0
母乳分泌における脂質濃度調節機構の解析	小児科学	講師(准)	瀧谷 公隆	*	800	0	0	0	0
可視光の皮膚アンチエイジング効果に関する基礎的研究~DNA修復能に着目して	皮膚科学	教授	森脇 真一	*	900	0	0	0	0
好中球エラスターゼ阻害剤による致死的放射線肺障害の防止に関する実験的研究	放射線医学	専門教授	猪俣 泰典	*	500	0	0	0	0
外科医教育のためのe-learning用内視鏡外科教材Websurgの充実と発展	一般・消化器 外科学	教授	谷川 允彦	*	500	0	0	0	0
ラットでの大動脈弁狭窄症術後肥大大心筋の治療過程の研究:エプレレノン投与は有用か?	胸部外科学	講師(准)	小澤 英樹	*	700	0	0	0	0
局所的GABAシステム仮説に立脚した三叉神経痛発生メカニズムへのアプローチ	解剖学	講師(准)	早崎 華	*	1,200	0	0	0	0
顆粒膜細胞におけるミトコンドリアDNA欠損が卵発育障害をおこすメカニズムの検討	産婦人科学	講師	山下 能毅	*	1,000	0	0	0	0
子宮内膜癌に対するMPAの分子標的治療薬としての機能解析とその制御の検討	産婦人科学	講師	金村 昌徳	*	800	0	0	0	0
癌幹細胞をターゲットとした卵巣癌の白金製剤耐性機構の解明とその制御	産婦人科学	講師(准)	田辺 晃子	*	900	0	0	0	0
糖尿病網膜症の硝子体中コラーゲンに対する自己免疫反応と病態との関連	眼科学	教授	池田 恒彦	*	1,100	0	0	0	0
電気分解法を用いた医療廃液処理技術の開発と評価	微生物学	准教授	中野 隆史	*	800	500	0	0	0
蝸牛内直流電位の調節に対する細胞間タイト結合(クローディン)の役割	生理学	教授	窪田 隆裕	*	700	600	0	0	0
心筋カルシウム制御タンパク質及びイオンチャネルにおける糖鎖機能の解明	薬理学	教授	朝日 通雄	*	1,100	500	0	0	0
トランスサイレチン起因アミロイド凝集形成機序としてのラジカル反応の分子機構解明	臨床 検査医学	准教授	中西 豊文	*	900	800	0	0	0
PPARα agonistが高血圧・糖尿病動物モデルの心脂質量・心機能に与える影響の検討	内科学III	教授	石坂 信和	*	1,200	600	0	0	0
小児起立性調節障害の新しいサブタイプの同定と、新治療法の効果に関する研究	小児科学	准教授	田中 英高	*	500	500	0	0	0
胎内肺傷害後の重症新生児慢性肺疾患患児における細胞外酸化還元環境の破綻	周産期 センター	講師	荻原 享	*	1,100	600	0	0	0
統合失調症と感情障害の中間型に対する疫学調査	神経 精神医学	准教授	康 純	*	700	1,700	0	0	0
分泌型CEACAM-1はマウス移植乳癌の血管とリンパ管新生を促進する	解剖学	講師	伊藤 裕子	*	1,500	500	0	0	0
アクロメリン酸誘導体を用いた神経障害性疼痛治療薬の開発と痛みの定量化	麻酔科学	教授	南 敏明	*	500	1,600	0	0	0
癌幹細胞をターゲットとした子宮内膜癌の浸潤・転移制御と分子標的治療への応用	産婦人科学	講師	寺井 義人	*	1,000	900	0	0	0
蝸牛内リンパ腔電位の調節における辺縁細胞Ca2+透過性チャネルの役割	生理学	准教授	森 禎章	*	700	700	900	0	0
頭頸部扁平上皮癌におけるプロスタグランジン受容体の解析とその臨床的意義	耳鼻 咽喉科学	教授	河田 了	*	800	1,000	0	0	0
緑内障モデルにおけるP2X7受容体活性化と網膜神経節細胞障害の関連性	眼科学	講師	杉山 哲也	*	1,000	1,000	0	0	0
活性化グリア細胞を介した網膜傷害に対するスタチンの抑制効果の検討	眼科学	診療准教授	奥 英弘	*	1,300	900	0	0	0
ラットを用いた肺高血圧に対する新しい薬物治療アプローチ	胸部外科学	准教授	根本慎太郎	*	1,000	1,000	0	0	0
在宅療養者と家族のQOL向上を目指した小地域基盤型ケアコミュニティの開発	看護学科	准教授	真継 和子	*	800	700	800	0	0

平成23年度科学研究費助成事業交付内定

■挑戦的萌芽研究

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
癌細胞選択的破壊による革新的浸潤癌膀胱温存治療「硼素膀胱局所動注中性子捕捉療法」	泌尿器科学	教授	東 治人	*	1,400	0	0	0	0
高分子ミセルを用いた卵巣癌の癌幹細胞に対する標的治療の開発	産婦人科学	教授	大道 正英	*	700	600	0	0	0
臓器移植を受ける患者及び家族に対する倫理的関わりモデルの開発	看護学科	教授	林 優子	*	700	1,100	0	0	0

■若手研究(B)

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
脱シアロ化短半減期エリスロポイエチン誘導体を用いた中枢神経再生治療法の開発	脳神経外科学	非常勤医師	三木 義仁	*	500	0	0	0	0
小胞体ストレス促進を利用した進行性腎癌治療	泌尿器科学	助教	稲元 輝生	*	700	0	0	0	0
カルシウム測定系を利用した葉緑体からの新規細胞内情報伝達経路の解明	生物学	講師	原田 明子	*	900	900	0	0	0
遺伝的に異なる近交系メダカ2系統を用いた嗅覚の適応進化メカニズムの解析	生物学	助教	橋口 康之	*	1,500	0	0	0	0
高齢者の筋肉量に関する疫学的研究—要介護移行に関連するカットオフ値—	衛生学・公衆衛生学	講師	谷本 芳美	*	300	0	0	0	0
乳幼児突然死症候群における質量顕微鏡による診断マーカーの確立についての検討	法医学	助教	佐藤 貴子	*	900	0	0	0	0
悪性脳腫瘍術中蛍光診断の蛍光メカニズム解析と神経膠腫幹細胞への光線力学療法への応用	脳神経外科学	非常勤講師	池田 直康	*	1,600	0	0	0	0
脳腫瘍治療後の病態解析における18F-BPA-PETの有用性に関する研究	脳神経外科学	助教	嶽北 葉子	*	1,300	0	0	0	0
がん幹細胞をターゲットにした光線力学療法および化学療法の開発	脳神経外科学	非常勤医師	井上 洋人	*	1,400	0	0	0	0
アロ活性化マクロファージによるアロ移植細胞拒絶機構の解析	泌尿器科学	講師(准)	能見 勇人	*	700	700	700	0	0
顆粒膜細胞におけるアンドロゲンレセプター発現は卵胞発育に重要か?	産婦人科学	助教	林 篤史	*	1,100	0	0	0	0
新しい虚血再灌流動物を用いた、内耳虚血の高圧酸素、エタラボン同時投与の治療効果	耳鼻咽喉科学	助教	乾 崇樹	*	1,000	0	0	0	0
皮内での腫瘍細胞の増殖と拒絶を制御する免疫細胞と因子による新しい癌根治療法の開発	形成外科学	非常勤医師	井畑 峰紀	*	1,000	900	0	0	0
テネイシンWの頭蓋冠縫合における働き	形成外科学	助教	三倉 文子	*	1,200	0	0	0	0

■研究活動スタート支援

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
関節軟骨維持におけるヘパラン脱硫酸酵素(Sulf)の役割	整形外科	助教	大槻 周平	*	1,130	0	0	0	0
三次救急医療に従事する看護師の自殺未遂患者に対する態度変容の過程	看護学科	助教	瓜崎 貴雄	*	830	0	0	0	0

《科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)》

■基盤研究(C)一般

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
プロテオーム解析で見出した抗癌剤耐性関連蛋白質の構造機能相関の解明とその応用	化学・生体分子学	講師(准)	境 晶子		1,400	1,400	1,300	0	0
医学英語教育におけるニーズと現状のギャップ—多角的分析を通じて	語学(独語)	准教授	中川 一成		800	1,200	600	0	0

平成23年度科学研究費助成事業交付内定

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
回転分子モーターF1(γV1)-ATPaseの回転子を人工的に作る	物理学	助教	古池 晶		3,200	600	500	0	0
間歇的低酸素負荷に伴う臓器別ストレス応答とラジカルスカベンジによる新たな治療戦略	内科学Ⅲ	准教授	林 哲也		2,600	1,100	200	0	0
メタボリックシンドロームの合併症予防を目指したキマーゼ阻害の意義	薬理学	准教授	高井 真司		1,100	1,400	1,400	0	0
新規レチノイドによる急性前骨髄球性白血病細胞分化のエピジェネティクス機構の解明	小児科学	助教	井上 彰子		1,500	1,400	1,000	0	0
小児期非アルコール性脂肪性肝炎における酸化ストレス評価法の検討	小児科学	教授	玉井 浩		2,400	1,000	600	0	0
非アルコール性脂肪性肝炎におけるキマーゼの役割	一般消化器外科学	講師	林 道廣		1,700	1,100	1,100	0	0
脳放射線壊死の新規診断法とベバシズマブを用いた新規治療法の研究	脳神経外科学	助教	古瀬 元雅		1,500	1,800	700	0	0
アミノ酸付加-BSHを用いた新規ホウ素中性子捕捉療法による治療効果向上の試み	脳神経外科学	助教	川端 信司		2,100	1,200	800	0	0
グリオーマ幹細胞を標的とした光線力学療法の開発:ポルフィリン排泄と分化の制御	脳神経外科学	教授	黒岩 敏彦		1,700	1,100	1,100	0	0
肩関節の生体力学的解析に基づく腱板断裂発症機構の解明	整形外科	助教	三幡 輝久		1,800	1,400	800	0	0
アルコールはセトリ細胞のオートファジーを増加させる	解剖学	助教	A. S. Eid Nabil		1,600	900	700	0	0
GABA受容体による生殖細胞形成過程のメカニズムの解明	解剖学	講師	神原 清人		1,500	1,400	1,000	0	0
スギ花粉症に対する表皮免疫療法の開発について-TSLPの機能解析を中心に-	耳鼻咽喉科学	講師	寺田 哲也		3,400	600	200	0	0
口腔内の生体防御能の促進に向けた看護口腔ケアモデルの開発	看護学科	教授	道重 文子		2,100	800	800	500	0
重度肢体不自由児の成人移行期における父親役割の明確化と看護支援プログラム開発	看護学科	准教授	竹村 淳子		1,000	1,100	900	500	0
介護保険施設における看護・介護職者の協働・連携を促進するための教育モデルの開発	看護学科	教授	小林 貴子		1,300	1,400	1,000	0	0

■挑戦的萌芽研究

(研究課題番号順)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
脳放射線壊死の病態解析(治療戦略の構築に向けて)	脳神経外科学	准教授	宮武 伸一		2,900	0	0	0	0

■若手研究(B)

(研究課題番号順)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
ロマン主義におけるプラグマティズムの可能性—コールリッジと十九世紀リベラリズム	語学(英語)	助教	中村 仁紀		500	500	600	0	0
スケール構造の普遍性—日英語の数量表現を通じて—	語学(英語)	講師	南 英理		800	700	500	0	0
超高分解能X線および中性子線結晶構造を基盤とした銅含有アミン酸化酵素の反応解析	生化学	助教	村川 武志		1,300	1,000	1,200	0	0
Dent病における近位尿管細胞内H ⁺ 輸送の役割—Dent病の治療を目指して—	生理学	助教	白岩 有佳		900	1,900	500	0	0
水生生物に対する化学物質のイオンチャネルに対する複合影響評価	衛生学・公衆衛生学	准教授	清水 宏泰		200	200	0	0	0
ω-3多価不飽和脂肪酸による核内受容体を介した多発性硬化症の新たな病態制御	内科学Ⅰ	助教(准)	土居 芳充		2,500	800	0	0	0
新生児慢性肺疾患の出生前発症誘導における酸化還元バランスの破綻について	周産期センター	助教(准)	長谷川昌史		1,600	1,200	0	0	0
非定型精神病の全ゲノム関連解析法を用いた遺伝学的解明	神経精神医学	助教	金沢 徹文		2,200	1,100	0	0	0

日米合同悪性腫瘍シンポジウム

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
臓器移植拒絶の制御をめざして：新規移植抗原識別受容体MMRの解析と阻害法の開発	生理学	講師	山路 純子		900	800	700	800	0
瘢痕性眼表面疾患における眼球癒着に対するキマゼ阻害剤の効果の検討	眼科学	非常勤講師	勝村 浩三		1,900	1,400	0	0	0
視神経再生に関与する特異的マクロファージの探索	眼科学	助教	栗本 拓治		1,400	1,700	0	0	0
肝移植レシピエントの継続的看護支援及びネットワークシステム構築に向けた基礎的研究	看護学科	助教	太田 名美		1,200	600	500	0	0

米国泌尿器科学会における、日米合同悪性腫瘍シンポジウムでの特集企画 「浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存治療“OMC-regimen”」の治療成績発表について

American Urological Association (AUA)
The 5th AUA/JUA International Affiliate Society Meeting
2:00 p.m. - 4:00 p.m., 15 May, 2011, Washington, D.C.

泌尿器科学教室 教授 東 治人

先日、米国ワシントンにて行われた米国泌尿器科学会・日米合同悪性腫瘍シンポジウムの中で特集企画として、「浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存治療“OMC-regimen”」を取り上げて頂き、その治療成績の発表、並びに日米間での意見交換がなされました。“OMC-regimen”は「抗癌剤動脈内投与＋血液透析（極めて高濃度の抗癌剤を膀胱周囲組織に限局的に投与することが可能）＋放射線照射を組み合わせた本学独自の集学的治療法」で、多くの患者様を膀胱摘出することなく、また、通常の化学療法にみられる骨髄抑制や消化管障害などの副作用を殆ど認めることなく、癌を完治させる画期的な治療法です。この治療法の開発により、元来高齢者が多く年齢その他の理由で治療の対象になり得ず、姑息的な治療にとどまらざるを得なかった患者層にも容易に“根治を目標とした治療”を行うことが可能となりました。

我々はこれまで、100例以上の患者様にこの治療法を施行し、組織タイプが尿路上皮癌である局所膀胱浸潤癌では90%以上の患者様に根治が誘導され、根治が誘導された患者様では、最長14年の観察期間を経てほとんどの方が再発、転移を認めず元気に生活されています。一つ大きな問題点として本治療法は保険適応外治療であるため、自費、あるいは研究費での治療を余儀なくされていたことでした。しかし、この度高度医療に認可され、混合診療という形式での診療（BOAI-CDDP、および、透析医療の医療費のみを自費、あるいは研究費にて賄う）が可能となります。本治療法は、最短3－4日の入院にて治療が可能であること、また、血液透析の併用により抗癌剤の副作用をほとんど認めないため高齢者（最長98歳）や腎機能低下症例にも治療を完遂することが可能であることなど幅広い患者様に適用することが可能です。



今回の日米合同悪性腫瘍シンポジウムでは、米国の多くの先生方に高い関心が集まり、今後、米国との共同研究、および、協同臨床試験を企画する予定です。

今後も、この高度医療認可のもとで治療実績を積み重ね、近い将来には保険適応認可へと進み、より多くの患者様に広く適用していただけるよう考えております。先生方におかれましては、日常診療にて日々極めてお忙しいことと存じますが、もし、先生方の間で“膀胱摘除を余儀なくされた患者様”、あるいは“年齢や全身状態その他の理由で根治的な治療を考慮することが困難な膀胱癌の患者様”がおられましたら、是非、御紹介いただければ幸いです。何卒、宜しく御高配をいただけますようお願い申し上げます。

平成23年度 第 I 回 学位記授与式

日 時： 平成23年 7月29日（金）15時～
 場 所： 別館 1階講堂（階段教室）及び3階大学院多目的講義室
 大学院医学研究科修了者（甲） …… 4名
 論文提出者（乙） …………… 5名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第892号	井上 善博	Transgene number-dependent, gene expression rate-independent rejection of D ^d -, K ^d -, or D ^d K ^d -transgened mouse skin or tumor cells from C57BL/6 (D ^b K ^b) mice (C57BL/6 (D ^b K ^b) マウスは、D ^d 、K ^d やD ^d K ^d 遺伝子を移入したマウスの皮膚や腫瘍細胞を、移入した遺伝子の発現量ではなく、移入した遺伝子の数に依存して拒絶する)
甲第893号	茅野 新	Evaluation of the learning curve in laparoscopic low anterior resection for rectal cancer (直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術におけるラーニングカーブの検討)
甲第894号	高橋 優子	Versican G1 and G3 domains are upregulated and latent transforming growth factor-β binding protein-4 is downregulated in breast cancer stroma (乳癌組織の間質におけるパーシカンG1、G3ドメインの増加、および潜在型TGF-β結合蛋白4の減少)
甲第895号	田中 義久	Sunitinib Suppresses Tumor Growth and Metastases in a Highly Metastatic Mouse Mammary Cancer Model (スニチニブは高転移性マウス乳癌モデルにおいて腫瘍増殖と転移を抑制する)
番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第1094号	河上 千尋	Clinical predictors of pneumonia in pediatric influenza virus infection in H1N1pdm pandemic period (パンデミック・インフルエンザウイルス (H1N1pdm) 流行期における、小児のインフルエンザ関連肺炎の臨床的予知因子について)
乙第1095号	藤原 真也	Anhedonia in Japanese patients with Parkinson's disease (日本人パーキンソン病患者における幸福感の喪失)
乙第1096号	竹内 望	Gastric ulcer healing after treatment of endoscopic submucosal dissection in Japanese: comparison of H ₂ receptor antagonist and proton pump inhibitor administration (日本人における内視鏡的胃粘膜切開剥離術後の胃潰瘍治癒に関する研究：H ₂ 受容体拮抗薬とプロトンポンプインヒビターの比較検討)
乙第1097号	福井 秀雄	Impact of Hepatitis B Virus Genotypes B/C, Core promoter/Precore Mutations, and Viral Load on the Development of Hepatocellular Carcinoma in Japanese Patients with HBV-related Chronic Liver Diseases (B型肝炎ウイルス関連慢性肝疾患を有する日本人患者の肝細胞癌発生における遺伝子型B/C、コアプロモーター/プレコア領域の遺伝子変異およびウイルス量の影響)
乙第1098号	北野 直	健常成人の立位静止時足底圧の基準値について ～2つの足底圧計測装置を用いての検討～ (Standard value of static foot pressure of normal adult foot - Consideration of the differences between two foot pressure measuring devices -)

平成22年度 事業報告と決算について

【事業の概要】

I. 活動の概況

本法人の理念は、寄付行為第3条のとおり「教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践を通して人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする」であり、平成22年度も本法人はその理念・目的に沿って運営を行った。

そのうえで、平成22年度の本法人における基本的な事業活動方針は、理事長の所信表明にある『あらゆる手段を講じて財政の磐石化を図ること』を念頭に置き、財政の緊縮を基盤に据えて事業を遂行した。つまり、ここ数年の本法人の財政事情は大変厳しい状況に置かれており、加えて、前年度には周産期医療環境整備事業における失態により、本年度に多額の自己資金を投入せざるを得ない、という洵に遺憾な出来事があったが、財務収支のマイナスを抑え、財政基盤の磐石化の第一歩を踏み出すべく、あらゆる分野において、資金の用途には慎重を期し、業務遂行上必要不可欠な最低限度の投資を行った。

一方で、同年度の診療報酬の改定が、本学にとって有利に働いたことは事実であり、結果的に収支改善を可能とする病院運営ができたことは、喜ばしい状況であった。加えて、日常の業務活動の中で、病院の収益確保及び業務管理の強化が極めて大切であることが全学的に認識され、平成22年度に理事会直轄の「病院経営改善委員会」が立ち上がり、収支改善を目指して様々な対策や立案が本委員会で議論され、全診療科にヒアリングを行い、活動方針を定めたことは、次年度の活動方針を明らかにするうえで意義深いものとなった。

ただし、平成23年3月に突然の未曾有の大震災が発生し、平成22年度の業務活動には直ちに重大な影響はなかったものの、平成23年度以降この事態が本学の活動にどのような影響を与えるかを注視しながら、期の活動を閉じることとなった。

以上、学校法人大阪医科大学の平成22年度事業概要の中で、教育・研究・診療に関する通常の経常的な事業は滞りなく進んだことをご報告申し上げるとともに、経常的な事業以外の、平成22年度事業計画書に掲載したシステム事業、主な大型改修工事ならびに高額機器購入、および都市再生特別地区事業計画の進捗状況について、以下にご報告する。

システム構築

ネットワークシステム更改 [継続]

大学ネットワークシステムの残務作業とインターネット関連の更改作業を実施し、その後、病院ネットワークシステムを更改した。

1. インターネット利用環境の更改（平成22年4月～6月）

- ① インターネットアクセスの速度向上を図るため従来のギャランティー型（10Mbps）の回線に加え、ベストエフォート型（100Mbps）の回線を併用することで約10倍のアクセス速度を実現した。
 - ・ギャランティー型サービス：通信速度やサービスの品質を保証する方式。
専用線接続サービス。
 - ・ベストエフォート型サービス：通信速度を保証しない方式。
基地局の距離や回線の混雑度により上下するが、低価格で高速な通信速度が得られる。
- ② 電子メールの送受信については、安定性が求められるため、ギャランティー型の回線とした。また、情報収集などに利用するWebアクセスについては、ベストエフォート型の回線を優先的に利用することで、速度の向上と安定性の両立を実現した。
- ③ 電子メールやWebアクセスに用いる各種サーバ機器を、より高速処理が可能な機器へ更改することで、課題となっていた電子メールのレスポンスを改善することができた。

さらに、主要なサーバ機器は2台1組で冗長構成を採用することで、故障発生時にもサービスが継続

平成22年度事業報告と決算について

できるように可用性を向上させた。また各サーバ機器の記憶領域についても、冗長構成を採用することで、故障時のデータ消失も最大限回避可能な構成とした。

2. 病院ネットワークシステム更改（平成22年7月～9月）

- ①病院ネットワークは患者、情報を扱うシステムが存在することから、大学と同様にネットワーク機器間の接続に物理ケーブルを2本用いることで、通信速度の向上と安定性の両立を実現した。
- ②病院ネットワークシステムは、大きく分けて、病院医療情報システムと画像情報システムの2つが存在するので、それぞれのトラフィックの干渉を最大限回避するために基幹スイッチを別々に設けた。さらに、各基幹スイッチ間を20Gbpsの速度で結ぶことで、リスクの回避と各システムのスムーズな相互連携が可能な設計となっている。
- ③病院ネットワークシステムと大学ネットワークの接続については、ファイアウォールを設置して、電子メールやWebアクセスが安全に利用できるようにした。また、このファイアウォールにて大学から病院へのアクセスは全てシャットアウトしている。

3. 残工事（平成22年10月～12月）

電話ケーブル敷設・ラック撤去等を行った。

法人ITシステムの統合 [継続]

今期は、主に昨年度に導入したグループウェアの本格運用、ならびに業務システムの改修を実施した。さらに、来年度に更改を予定している本システム基幹サーバの要件定義をまとめた。

1. グループウェアの本格運用

- ①グループウェアシステムへ人事情報を入力するために人事連携サブツールを構築した。これにより、登録間違いや誤字脱字等の人的ミスの発生リスクが低減する。
- ②運用管理するための各種規程を作成した。
- ③運用管理部署（総務課）に対して、運用管理のための教育を実施した。
- ④ワークフロー（電子申請）実施のための要件を整理した。

2. ウィルス対策ソフトの統合化（サーバ化）

クライアント用ウィルス対策ソフト製品が統一され、パターンファイルの配信を管理サーバにて一括管理することで、ウィルスに対するセキュリティが強化された。

3. 法人事務部門学外公開用Webサーバの構築

法人事務部門内に外部公開用Webサーバを構築することにより、大学と法人の管理の切り分けを実現した。これにより、システム改修や障害発生時の影響範囲を法人事務部門内に限定される。

4. 保守未対応の各種業務サブツールの改修（保守対応型へ移行）

職員が独自に作成した業務ツールの運用は、作成者個人に依存するため障害発生時に対応ができず、円滑な業務運営に影響を与えている。そこで、下記ツールを改修して保守対応型に移行した。

- ・業者支払関係、謝金管理、立替払、課金、支払チェック、駐車場管理ツール
- ・医療費補助管理、勤務予定連携、看護師応募管理

5. 簡易分析機能の導入

下記3項目のデータ集計／出力機能強化を行い、財務分析の基礎となるデータを出力できるよう対応した。

- ①私立医科大学財務諸表関係比率調査書対応
- ②部署別計算書出力対応
- ③人件費推移情報出力対応

6. 看護学務システムへの支援作業協力

平成22年度事業報告と決算について

7. 来年度に予定されているハードウェアの保守サポート切れに対応するため、本システムを更改するための要件定義をまとめた。

以上、本年度において、旧システムへの改修がほぼ終了し、かつ電子申請（ワークフロー）を実現するための基盤が整った。

主な大型改修工事ならびに高額機器購入

リハビリテーションセンター区域・61病棟周り改修工事他

病院7号館開設以来、既存の病棟を計画的に改修し、療養環境の改善や経年劣化に伴う設備機器の修繕を行ってきた。

その中で、開設以来約40数余年が経過しているリハビリテーションセンター区域・61病棟周り改修工事・小児科外来区域改修を計画していたが、平成21年度の事業であった附属病院周産期センター拡張整備事業（*）が平成22年度に繰り越され、急遽、本学の自己資金を投入して改修工事を実施せざるを得ない状況となったため、リハビリテーションセンター区域・61病棟周り改修工事他の改修資金として確保していた資金を投入することになり、本工事は実施されなかった。今後、当該診療部署の収支状況などを見据え、改めてこの区域の工事案を立て、実施時期を決めていく。

*附属病院周産期センター拡張整備事業

文部科学省に申請していた「平成21年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）」大阪医科大学附属病院周産期センター拡張事業が、平成21年6月4日付けで採択された。

これは、本学附属病院の周産期医療体制の更なる高度化を目指し、現状、未整備であるMFICU（母体・胎児集中治療室）を新たに6床整備すると共に、現行のNICU（新生児特定集中治療室）を6床から9床へ、GCU（新生児治療回復室）を10床から15床へ増床し、併せて高度医療機器を配置し、地域周産期母子医療センターとして機能を充実させることを目的として計画した事業である。

しかしながら、現状の周産期医療機能を維持運用しながら、整備を行うためには、当初計画した安全対策面や時間面および経費面等で種々問題が起り、この事業が平成22年度に繰り越された。

最終的に、大阪医科大学附属病院周産期センター拡張事業については、NICU9床、GCU12床、MFICU（機能を有する病床）6床と高度医療機器の整備が平成22年度中に完工した。

解剖室のホルムアルデヒド、ウィルス感染対策用解剖台設置

まず設置の経緯を説明すると、ホルムアルデヒド、1・3-ブタジエンおよび硫酸ジエチルに係わる労働者の健康障害防止対策強化を目的として、「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令」（平成19年政令第375号）が平成19年12月14日に公布された。またこれに伴い、「特定化学物質障害予防規則等の一部を改正する省令」（平成19年厚生労働省令第155号）その他関係告示が平成19年12月28日に公布・公示された。

これらの法令に伴って、病理学教室の作業環境を見直し、改善することが求められた。その施行・適用の猶予期限が平成20年5月31日または平成21年2月28日までとなっており、既にこの期限は過ぎていたが、法令遵守、安全で質の高い医療（病院の理念）などの観点から、早急に改善する運びとなった。

解剖台の設置にあたっては、既存の解剖室の広さ、間取り、空調設備を利用して行う条件の下に、施設課（ボイラー）、同課（電気）、物流センター、総合企画部、病理学教室等々の関係部署と、メーカー、空調、電気、ゼネコンなどの業者担当者が集まり検討を重ねた。

そして10月末に労働基準監督署に「機械等設置届」を提出し、その届出が受理されると同時に、12月初めには設置を完了した。

次にその効果であるが、設置後、平成23年2月21日に外部業者による作業環境測定が行われた。通常は定期的に年2回行われる測定であるが、平成22年の秋期は解剖台設置工事のため延期し、上記の日程で行われた。その結果、以下の測定値となり、「平成22年5月13日の設置前測定値は0.14ppm」であり「平成23年2月21日の設置後測定値は0.02ppm」と改善された。

その他の改善点としては、ウィルス感染対策の効果は、可視的变化が確認できるものではないので、現時点での評価は難しいが、気流の降下により、ご遺体が放つ臭気が顕著に軽減された。

平成22年度事業報告と決算について

また昇降機能により、解剖台・作業台を任意の高さに調整できるため、腰への負担が軽減され、腰痛予防に役立っている。

粉末染色装置オートスライド

[総合血液検査システムの導入]

平成22年度事業として計画していた総合血液検査システムを、平成23年2月5日に導入を完了した。本装置は、従来の装置と同様にCBCや白血球分類、網赤血球、図胃液細胞の測定が行え、異常細胞の分析精度も高く、日常検査および時間外緊急検査に大きな威力を発揮するものと期待される。

従来の血液検査システムは、CBCや白血球分類等を行う血球分析装置と血液塗抹標本作製を行う装置が独立していたが、本装置ではこれらの装置が連結した構成となっており、従来のシステムに比べより迅速に検査結果を報告できる体制が取れるようになった。また、従来は、専用のCPUシステムで血液検査を管理してきたが、新システムでは中央検査部CPUシステムに直結され、情報管理体制も強化された。

平成22年度実績より、本検査システムでは年間保険点数：約689万点（約19万2千検体39万項目測定）の収益が予想される。

栄養管理・栄養システム一式

平成18年4月の診療報酬改定により、入院患者様の栄養管理が義務付けられた。結果、患者様一人ひとりの病態・年齢・体格に合わせた食事の提供、ならびに摂取状況などに合わせた個別対応の必要性が求められてきた。また、食物アレルギーを持つ患者様の増加により、食事の提供が複雑化しているため、厨房業務もさらに複雑化し、誤配膳のリスクが大きくなっている。これらのことを改善すべく、食事提供が効率良く対応できる栄養管理システムの導入を行った。また、システムの入替えと同時に、食事基準の改訂により必要な食種の作成、無駄な食種の削除等の簡素化を図り効率的な個別対応を目指した。

旧システムでは、手作業での追加対応が多く、無駄な時間を要し、それが誤配膳のリスクとなり、加えて食材の発注や調理食数など正確な数が把握できないことから、発注量や調理数に誤差が出るなど、食材の無駄に繋がることも多かった。

新システムに変更したことにより、一人ひとりに対応した献立が作成できるようになり、短時間での食事内容把握が可能となった。厨房では、調理数が明確になり、調理作業の効率化に繋がっている。また、食札に献立を表示したことで、一人ひとりの食事内容が確実に把握でき、確認作業も容易になった。同時に導入した選択メニューのアンケート集計機能では、アンケート結果をスキャナーで読み込むため、以前の手作業で入力していた時に比べ、大幅な時間短縮や入力ミスの防止に効果を発揮している。厨房の作業効率だけではなく、食札に献立名と栄養量の表示を行ったことで、患者様からも「退院後の食事の参考になる」とのご意見が多く好評であった。

業務内容の複雑さから、新システムによりすべての手作業をカバーするには至っていないが、より効率的な作業遂行が可能となり、リスクの軽減にも繋がっている。何よりも患者様一人ひとりの病状に合わせた栄養管理を行ううえで、個別対応に強い新システムの導入は大変な成功であったと言える。

サクラ高圧蒸気滅菌装置

中央材料室に設置されている高圧蒸気滅菌装置5基は、設置以来20～23年が経過し、これまで劣化による修理を行ってきたが、点検修理や部品交換に長時間を要し業務の妨げになっていた。この度2号機を、年1回の性能検査に合わせた9月に更新を行った。それにより故障で業務に支障を来すこともなく、各部署に安全で質の高い医療器材の提供が行われている。

再来受付機の入替え

病院事務部医事課では平成22年度の事業計画として、自動再来受付機の更新を行った。本院で再診を受けられた方には馴染み深い、自動再来受付機とは、病院の正面玄関等に設置され再診を受付するシステムである。このシステムは、患者様が診察券で受付をすると、受付された内容が各診療科の受付で伝票として出力される。受付では伝票を基に保険種別の確認、患者一部負担金の確認、保険証確認の有無の判断、前回来院日の確認など、様々な情報を確認した後、外来カルテを抽出する。この情報確認を行うことにより、スムーズに外来カルテの準備ができるので、患者サービスが向上すると共に業務の効率化に繋がっている。

平成22年度事業報告と決算について

同システムは、病院医療情報部の全面的な支援により、平成16年3月に導入されているが、毎日約2,000名を受付し、この7年間では延べ376万人余りの患者様の受付をしてきた。よって、老朽化が著しく、平成22年度は、保守期間も終了し在庫部品もない状態で稼動。頻繁に故障・修理を繰り返し、内1台は修理不能になるなど綱渡りの状態であった。

今回、システムを入れ替えることにより、画面構成も改めて見直した。ボタンや文字表示も大きくすることで、お年寄りにも見易くすることができた。これに併せて、看護部の力も借り、受付内容も全診療科統一することができた。また、本体自体がスリム化されたことにより、病院正面玄関に配置された横面に、以前より患者様から要望の多かった物置台の設置も実現でき、これも患者サービス向上の一環となった。

地上波デジタル改修 [病院]

平成23年7月24日に地上テレビ放送は完全にデジタル放送に移行し、アナログ放送が終了することに伴い、病院の現行テレビ受信設備の改修を行った。

事前に地上デジタル放送受信レベルの調査から始め、病室及び各テレビ端子設置場所において出力電波レベル測定を行い、順次停波し機器（アンテナ・増幅器）の取り替え、および視聴不備の対策として増幅器・分配器の増設、それに伴う電源増設工事を完了させ、出力電波レベル調整および視聴確認を行った。

現在、既存配線のフィーダー線を利用している為、衛星放送（BS/CS）の視聴には電波出力レベルの減衰が大きく、衛星放送が視聴できない状況で、引き続き衛星放送（改修前には、アナログ変換にて視聴可能であった）を視聴する為には既存配線を取替える必要がある。今後、衛星放送視聴の要望があれば個別に配線をするか、すべてに対応する為には別途予算措置が必要となる。

保育室天井改修工事

建物と設備機器が老朽化（経年劣化）しており、一時的に保育室を移動させて改修工事を行う計画が、平成21年度より引き続き事業計画に上っている。結論としては平成22年度もこの工事を延期した。その背景としては、保育室の全面建て替えの計画案も出ており、それを実施するとなれば、現状お金を掛けて今の保育室の天井修理を行っても、無駄な投資となると考えたためである。

今後、保育室の全面建て替えを含めた改修計画案を関係各部署と協議し、その実施時期を見据えながら、天井の改修工事を行うかどうかの結論を出したい。

都市再生特別地区事業計画

都市再生特別地区事業計画検討資料の作成

平成22年度には都市再生特別地区事業計画の概要を把握し、中間報告を行った。報告資料は、都市再生特別地区事業計画申請と認可までの経緯、認可にかかる監督官庁との合意事項、現在までの整備進捗状況、今後事業を進めていく上で必要な施設の改修状況や耐震構造および財務データ等を作成した。

また、平成23年度においても、引き続き、附属病院を中心とした全面建て替え、一部建て替え計画、病院機能および費用等について数パターン計画を作成し、他の大学の実施例等を含めて検討する。さらに、関係各官公署との協議も始めながら、より計画を進めるためにも、実施に繋がる資料作成を検討している。学内の報告については、平成23年度に予定している。

【財務の概要】（平成22年度決算の概要）

I. 資金収支計算

「資金収支計算書」は学校法人の当該会計年度の諸活動に対応する、すべての収入支出の内容を明らかにし、且つ支払資金の収入支出の顛末を明らかにするものです。

資金収入合計額は37,173百万円となり、予算対比1,941百万円増加しました。これは主として医療収入、学生生徒等納付金収入、設備拡充引当資産繰入金収入、寄付金の増加によるものです。

資金支出の増加は、主に人件費、借入金等の返済、前期末未払金支払によるものです。最終的に次年

平成22年度事業報告と決算について

度繰越支払資金は5,010百万円となりました。

資金収入

- 1) 学生生徒等納付金収入
学生生徒等納付金収入は3,738百万円となり予算比で17百万円増加しました。授業料収入1,369百万円、入学金収入244百万円、実験実習料収入256百万円、施設整備資金収入827百万円、教育充実費収入1,040百万円となっております。看護学部開設及び医学部定員10名の増加により収入増となりました。
- 2) 寄付金収入
一般寄付金収入は433百万円、特別寄付金収入が190百万円となり、前期比94百万円増加し、予算比で58百万円の増加となりました。
- 3) 補助金収入
国庫補助金収入は1,514百万円、地方公共団体補助金収入は53百万円となりました。予算比で11百万円増加しましたが、前期比では267百万円減少しました。
- 4) 資産運用収入
資産運用収入は199百万円となり、受取利息配当金収入が前期比で9百万円減少し、施設設備利用料収入は8百万円減少しました。その結果予算比で63百万円の減少となっております。
- 5) 事業収入
事業収入は245百万円となり予算比で51百万円の減少となりました。対前期比では60百万円減少しました。補助活動収入及び共同研究費は前期比で増加しましたが、受託事業収入は前期比68百万円の減少となりました。
- 6) 医療収入
医療収入は、診療報酬改定の影響等により前期比で1,427百万円の大増収となりました。入院収入979百万円、外来収入350百万円の増収です。なお、医療収入の増収分には、健康科学クリニックの収入141百万円が含まれております。予算比では473百万円の超過となりました。
- 7) 借入金収入
予算通りに推移し、対前期比15億円減少しました。今年度長期借入金の発生が無く推移したことが大きな要因です。
- 8) 前受金収入
学生生徒等納付金は予算比で354百万円の増加となり、前期比で86百万円の増収となりました。
- 9) その他の収入
予算比で962百万円増加しました。設備拡充資金引当資産繰上収入を1,450百万円計上したことと前期末未収入金収入が前期比で2,282百万円増加したことによるものです。

資金支出

- 1) 人件費支出
人件費支出は予算比で11百万円減少となりましたが、実績においては前期比で535百万円増加しました。要因は、看護学部開設により教員人件費が441百万円増加したこと、職員人件費が54百万円増加したことによります。
- 2) 教育研究経費支出
教育研究経費支出は予算比で91百万円増加しましたが、前期比では44百万円減少となりました。光熱水費14百万円、委託費33百万円、借借費が42百万円増加しましたが、消耗品費23百万円、用品費18百万円、修繕費59百万円、奨学助成費は34百万円減少しました。医療材料費については大きな変動はありませんでした。

平成22年度事業報告と決算について

3) 管理経費支出

管理経費支出は予算比で4百万円増加しましたが、前期比では528百万円減少となりました。委託費支出が前期比で150百万円減少し、建物等撤去費支出は昨年度特有の項目で金額的には153百万円の減少、また大学改革推進等費補助金返還支出を215百万円計上したため大幅減少となりました。

4) 借入金等返済支出

予算比で550百万円増加し、前期比では598百万円の増加となりました。昨年度借入の返済が始まったことによります。

5) 施設関係支出

予算比で195百万円減少し、前期比では701百万円減少しました。

6) 設備関係支出

予算比で431百万円減少し、前期比では485百万円の減少となりました。昨年度は健康科学クリニック開設関連工事費及び看護学部研究棟新築工事費が計上されており本年度は大口の設備投資が無かったことが大きな原因となっております。

7) 資産運用支出

設備拡充引当資産へ1億円繰り入れました。

8) その他の支出

前期末未払金支払支出は予算比で466百万円増加となり、前期比では439百万円の増加となったことによります。

II. 消費収支計算

「消費収支計算書」は当該会計年度における消費収支の均衡状態とその内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すものです。いわゆる企業会計の損益計算書に該当するものです。

帰属収入は、学生生徒等納付金、補助金、医療収入等法人に帰属する負債とならない収入をさしませんが、今年度は予算比で554百万円増加しました。医療収入は診療報酬の改定を背景に予算比で473百万円増加し、前期比では1,427百万円の大幅増収となりました。学生生徒等納付金については、予算比で17百万円の増加となり、前期比では207百万円の増加となりました。看護学部開設及び医学部定員増加の影響によるものです。寄付金は予算比で76百万円増加し、実績額でも対前期比113百万円増加となりました。

消費支出は予算比で371百万円増加し、対前期比では514百万円増加しました。内訳は人件費が前期比で641百万円増加しました。看護学部開設が主な要因です。管理経費は委託費の削減や前期特殊要因であった大学改革推進等補助金返還分215百万円が前期比で減少し、総額で504百万円と大きく減少しました。企業でいう特別勘定にあたる資産処分差額において、有価証券の評価替えを行ったため前期比で384百万円増加となりました。

その結果帰属収支差額は160百万円の赤字となりました。

III. 貸借対照表

資産総額は前期比で728百万円減少しました。資産のうち建物が638百万円、教育研究用機器備品が180百万円減少しました。他方その他機器備品が388百万円増加しております。現預金は借入金の調達の抑制、年度借入金返済額の増加、設備拡充資金引当資産への振替にもかかわらず微減に止まっております。

有価証券については評価替えをしたことにより前期比で570百万円減少となりました。なお資産から負債を控除した純資産は財政改善の影響もあり微減となりました。

平成22年度事業報告と決算について

平成22年度資金収支決算（予算対比及び決算対比） 単位：100万円

	勘定科目	22年度予算額 (A)	22年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	21年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
収	学生生徒等納付金収入	3,721	3,738	-17	3,531	207
	手数料収入	171	201	-30	177	24
	寄付金収入	565	623	-58	529	94
	補助金収入	1,556	1,567	-11	1,834	-267
	資産運用収入	262	199	63	216	-17
	資産売却収入	0	0	0	32	-32
	事業収入	296	245	51	305	-60
	医療収入	22,415	22,888	-473	21,461	1,427
	入院収入	16,466	16,504	-38	15,525	979
	外来収入	5,505	6,108	-603	5,758	350
	その他の医療収入	518	379	139	260	119
	保険等査定減	-73	-103	30	-81	-22
	雑収入	431	466	-35	337	129
	借入金等収入	500	500	0	2,000	-1,500
	前受金収入	2,051	2,405	-354	2,319	86
	その他の収入	4,154	5,116	-962	3,133	1,983
	資金収入調整勘定	-6,175	-6,062	-113	-5,717	-345
	前年度繰越支払資金	5,285	5,285	0	7,062	-1,777
収入の部合計	35,232	37,173	-1,941	37,219	-46	

	勘定科目	22年度予算額 (A)	22年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	21年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
支	人件費支出	14,388	14,377	11	13,842	535
	教員人件費	4,973	4,866	107	4,425	441
	職員人件費	8,679	8,761	-82	8,707	54
	退職金	595	613	-18	571	42
	教育研究経費支出	11,123	11,214	-91	11,258	-44
	医療材料費	6,764	7,063	-299	7,063	0
	管理経費支出	2,030	2,034	-4	2,562	-528
	借入金等利息支出	89	90	-1	76	14
	借入金等返済支出	1,088	1,638	-550	1,040	598
	施設関係支出	360	165	195	866	-701
	設備関係支出	1,586	1,155	431	1,640	-485
	資産運用支出	56	1,661	-1,605	1,574	87
	その他の支出	3,008	2,394	614	2,107	287
	予備費	100	0	100	0	0
	資金支出調整勘定	-3,625	-2,564	-1,061	-3,031	467
	次年度繰越支払資金	5,029	5,010	19	5,285	-275
	支出の部合計	35,232	37,173	-1,941	37,219	-46

平成22年度消費収支決算（予算対比及び決算対比） 単位：100万円

	勘定科目	22年度予算額 (A)	22年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)	21年度決算額 (C)	増減 (B) - (C)
収	学生生徒等納付金	3,721	3,738	-17	3,531	207
	手数料	171	201	-30	177	24
	寄付金	575	651	-76	538	113
	補助金	1,556	1,567	-11	1,834	-267
	資産運用収入	262	199	63	216	-17
	資産売却差額	0	0	0	14	-14
	事業収入	296	245	51	305	-60
	医療収入	22,415	22,888	-473	21,461	1,427
	入院収入	16,466	16,504	-38	15,525	979
	外来収入	5,505	6,108	-603	5,758	350
	その他の医療収入	518	379	139	259	120
	保険等査定減	-73	-81	8	-81	0
	雑収入	431	491	-60	337	154
	帰属収入 [A]	29,427	29,981	-554	28,413	1,568
	基本金組入額 (▲)	-1,350	-1,150	-200	-1,108	-42
	消費収入の部合計 [B]	28,077	28,831	-754	27,305	1,526

支	人件費	14,414	14,495	-81	13,854	641
	教員人件費	4,973	4,866	107	4,425	441
	職員人件費	8,679	8,761	-82	8,707	54
	退職給与引当金繰入	621	730	-109	558	172
	退職年金	97	97	0	96	1
	教育研究経費	12,951	12,775	176	12,765	10
	医療材料費	6,764	7,058	-294	7,058	0
	管理経費	2,181	2,193	-12	2,697	-504
	借入金等利息	89	90	-1	76	14
	資産処分差額	11	586	-575	202	384
	徴収不能額	23	3	20	33	-30
	予備費	100	0	100	0	0
消費支出 [C]	29,770	30,141	-371	29,627	514	

帰属収支差額 [A - C]	-343	-160	-183	-1,214	1,053
消費収支差額 [B - C]	-1,693	-1,310	-383	-2,322	1,012

十万単位を四捨五入しているため合計と一致しない場合があります。

■ハワイ大学及び韓国カソリック大学における院外選択臨床実習参加について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環として韓国カソリック大学及びハワイ大学医学部と交流協定を締結し、学生・教員の相互研修を積極的に行っています。今年4月11日から4月29日まで韓国カソリック大学に6年生の文元聰志君、今城幸裕君、井上亮君、根来孝義君の4人を、又5月2日から5月27日までハワイ大学の連携病院であるクアキニ病院に6年生の岩井謙治君をそれぞれ約1ヶ月間、海外院外選択臨床実習生として派遣しました。

以下に岩井君と文元君の研修報告を紹介します。



■ハワイ・クアキニ病院での院外選択臨床実習

6年生 岩井 謙治

今回院外選択臨床実習でハワイ・クアキニ病院に4週間派遣していただきましたので、ここに報告致します。

このプログラムの最初の3週間はクアキニ病院の内科チームでの実習、次の1週間は沖縄出身でハワイで開業されているDr. Tokeshiのクリニックでの実習でした。これに加え週1回Dr. Littleの英語プレゼンテーションクラスがありました。

まずクアキニ病院での3週間ですが、大まかな1日のスケジュールは

- ～AM7:00 PreRound
- 7:00～10:30 Round
- 10:30～11:30 Lectuer
- 11:30～12:30 ICU Round
- 2:30 sign out

となっていました。レクチャーは日によってない時もあったのですが、火曜日はアカデミック・ハーフデイといって勤務は半日で終わりで、レジデントが皆クイーンズ病院へレクチャーを受けに行く日です。内科チームはA～Dまでであり、一つのチームは二年目レジデント一人、一年目レジデント一人もしくは二人、medical student、observer（私たち留学生）で構成されます。私はチームD所属でしたが、チームA～Cの二年目レジデントは皆日本人の先生だったので非常に驚きました。今回の留学では、一般的によく言われる「アメリカの医学部三年生と日本の研修医一年目が同等の実力だ」というのは本当かどうかを自分の目で確かめる事も目的の一つだったのですが、これは本当にその通りでした。彼らは朝5:30頃から受け持ち患者を診察しに行き、その日のラボデータを確認しラウンドの時にプレゼンします。日本との一番大きな違いは、誰も医学生を「学生だから…」という扱いをしないことだと感じました。また学生の方も自分たちは学生だから、という甘い考えはなくチームの一員として責任感をもって働いていて、彼らの姿を見て自分がいかに学生という身分に甘えて六年間過ごしてきたのかを反省させられました。またこれは個人的な意見ですが、日本では臨床実習は国家試験の準備の一部であるのに対し、アメリカの臨床実習は医師として本格的に働くための準備をする場であるというのも大きな違いであると思いました。

ただこの初めの3週間のクアキニ病院での実習で注意しなければならないのは、私たちはあくまでobserverであり患者さんに触れたり、実際のチャートを書いたりはできないということです。これは最

初のオリエンテーションで厳しく言われます。シャドウチャートを書いたり、プレゼンしたりというのはレジデントに頼めばおそらくさせてもらえるのですが、どこまでできるのかはレジデントの裁量と自分の積極性によるところが大きいと思います。

最初の週は勝手が分からず、あまり積極的になれなかったのが反省点です。

次に4週目のトケシクリニックについてです。まずおおまかな1日の流れは

AM 3:00~3:30 起床
4:00~ PreRound
6:30~7:30 Dr.Tokeshiのお話
7:30~8:30 Round
8:30~13:00 クリニック
13:00~14:00 昼休憩
17:00~ Dr.Tokeshiのお話
17:30~ afternoon round

となっていて、PreRoundでは7:30~の先生とのラウンドの前に自分の受け持ち患者をクアキニ病院と隣のナーシングホームに診察しに行き、カルテをすべて書きます。afternoon roundは学生だけで行います。この他、新しい入院があればその都度ERに行き、問診、診察をしたりアセスメント&プランを考えます。先生の「見ていると非常に簡単に見えることもやってみると意外とできない。何でも自分で実際やらなければ意味がない。」というコンセプトに基づき、先生の責任の下で問診、身体診察、採血など色々な事を体験させて頂きました。また先生は医学的な知識だけでなく、医師としての心構え、医師になるとはどういうことなのか、更には様々な歴史の話もしてくださり、ここ数年でこれほど感動したことはないというほど心を動かされた話もあって、1週間という短い期間に人生観が変わりました。話の内容についてはここで詳細に述べませんが、医師になる前に先生のお話を聞いて本当によかったと思いました。体力的には非常に厳しかったですが、この一年間のどの1週間よりも実りある1週間だったと実感しています。



関節鏡視下手術の見学

この4週間で医学的知識、英語を含めたくさんの事を学びましたが一番よかったのは色々な人との出会いです。クアキニ病院の内科の先生方や医学生、トケシ先生はもちろんのこと他の病院でレジデントをされている先生、日本人の整形外科、消化器外科、移植外科の先生、さらには患者さんからも言いつくせないほどの多くの事を学びました。

私は運良く整形外科や移植外科の先生とお話する機会があり、日本がアメリカに見習わなければならないこと、逆に日本がアメリカよりも優れているところなどを様々な視点から見る事がで

きました。海外に進出し、言葉や文化の壁を越えて頑張っている先生方の姿を間近で見、話を聞かせていただいた事はどんな本を読むよりも大きな刺激になり、今後の医師としての道を歩むにあたって大きなプラスになると確信しています。今回得たこの経験を自分一人のものにするのではなく、先輩、同級生、後輩、皆で共有できるよう努力したいと思います。最後に今回派遣に際して、力を貸してくださった河野先生をはじめとする教授の方々、中山国際センターの皆様、本当にありがとうございました。

■韓国カトリック大学医学部胸部外科での選択臨床実習

6年生 文元 聰志

このたび韓国カトリック大学医学部で臨床実習を受ける機会を頂きましたので報告いたします。

韓国カトリック大学医学部はその名の通り、キリスト教カトリック派を母体とする私立医大です。ソウルの江南にあるソウル聖母病院を中心に8つの附属病院を持ち韓国国内でも最大規模の病院群を形成しています。

今回の実習は韓国カトリック大学医学部の基幹病院であるソウル聖母病院で行われました。私が選択した胸部外科は心臓外科グループと呼吸器外科グループに分かれており、主に心臓外科グループで手術見学を中心に3週間勉強させて頂きました。

毎朝7:30のカンファレンスから始まり入院患者の紹介と術後患者の経過の報告があった後、レジデントによる論文の抄読会が毎日あります。日々の忙しい業務の中でもしっかりと論文を読んで最新のトピックスを吸収しようとするレジデントの先生方の姿勢は非常に今後の参考になりました。その後、病棟を回診し手術に参加します。

手術見学ですが全ての手術に手洗いをして清潔操作で参加しました。これは主任教授のJo教授のご厚意で、本来学生は心臓手術には清潔では参加せず手術室のモニターで見学するとのことでした。術者の隣に立って見学しますので術者とほぼ同じ目線から手術を見ることができるという稀有で恵まれた環境で勉強できました。参加した手術は以下の通りです。

Total-arch replacement 1例
Hemi-arch replacement 1例
MVR + LA mass resection + Posterior mitral annulus reconstruction 1例
MVR + TAP + Maze 3例
MVR + Maze + CABG 2例
CABG (on-pump) 5例
AVR + MVR + Reconstruction of sub left triogon 1例
MIDCAB 2例
AVR 2例 (うち1例は、Ao wrapping using Hemashield graftを施行)
Pulmonary thromboembolectomy 1例
PSD 1例
VSD closure 1例
Extended aortic arch anastomosis (directly anastomosis) 1例 計22例

この中でも特に印象深い症例はLA mass resectionです。教科書でLeft atriumにできるmassといえばMyxomaとされていますが、術中の迅速診断で悪性の疑いが持たれたため精査したところSarcomaとの確定診断がつかしました。Left atriumに生じたSarcomaは世界でも20例ほどしか報告のない稀なケースだそうで、そのような症例に実際に立ち会えたことは非常に貴重でした。

また先天性心疾患の手術に3例参加しましたが、いずれも第二助手として参加し、鉤引きや吸引を手伝いました。新生児の心臓に鉤をかけて引っ張るなどということは本学の実習で当然ながらやったことはなく非常に緊張しました。実際に新生児の心臓に触れてPulmonary arteryの壁に伝わってくるVSDによるthrillを自分の指先に感じた時は、元来物事に対して感動を覚えにくい性格なのですが不覚にも感動しました。

さらに、ちょうどKorean coronary surgery forumがWongjiyuでありましたので帯同しました。国内の学会なので当然発表は韓国語だったのですが、スライドとabstractが英語でしたのでおおまかに理解

することができました。Acute myocardial infarction (AMI) 発症後のどのタイミングにOPCABを施行すれば良いのかを調べたstudyで、緊急性が高い場合を除けばAMIの発症から3日～6日後にOPCABを施行した方が早期に施行するよりも生命予後に影響を及ぼさないが術後の合併症を減らすことができるといふ報告があり興味深かったです。



筆者中央

心臓外科の手術日は火曜日以外の平日だったので、火曜日は特にお願いして呼吸器外科グループの手術を見学させて頂きました。呼吸器外科を率いるSun教授はVideo assisted thoracic surgery (VATS) の名手として有名だそうです、年間150例ほどのVATSを執刀されています。非常に英語の堪能な方で、しかも国手との呼び声の高い偉い先生なのですが、私が手術室に訪れる度に気さくに声をかけて下さり、執刀された1例1例を本当に丁寧に解説して頂きました。とても勉強になりましたし、どこの馬の骨とも分からない私にご自分の時間を割いてまで呼吸器外科の魅力を熱く語って下さって嬉しかったです。

このように韓国での臨床実習はとても充実したものだったのですが、必ずしも良いことばかりではありませんでした。自分の英語の拙さゆえ、伝えたいことを上手く伝えられず歯痒い思いをしたり悲しい思いをしたことも多々ありました。また手術を見たいのであれば日本でも十分見ることができますし、その方がより効率よく勉強できると思います。

そうと分かっているながら何故海外の病院で実習したのかというと、ぬるま湯に浸かってそこに満足している自分を変えたいと強く願ったからです。大阪医大は本当に学生のことを大事にしてくれる素晴らしい大学だと思います。しかし、ともすればその素晴らしさに甘えて成長する機会を逸する危険性も孕んでいます。大学はもちろん、日本の外にはとても大きな世界が広がっています。グローバリズムが医療の分野にも浸透してきた今、その大きな世界の存在は無視できないものです。学生の段階で海外の病院で実習する意味は医学や医療技術を学ぶというより将来自分が切磋琢磨しなければならない相手を知ることだと思います。そういう意味で私は今回の実習は成功だったと思っています。

後輩のみなさんの中にも海外実習をしてみたい方が少なからずいらっしゃると思いますが、アドバイスをひとつするとすれば自分が海外の病院で何を見て何を知りたいのかをよく考えて参加して下さいということです。旅行気分で行ったり、マッチングで有利になりそうといった安易な参加理由であればやめておいた方が良いでしょう。失望するだけで何も得られません。目的意識の高い貪欲な方であれば予想以上の成果を上げることが出来ると思います。頑張ってください。

最後にこのような貴重な機会を与えて下さった河野教授をはじめとする先生方、中山センターの松本さんには深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

■「鳥インフルエンザサーベイランス強化プロジェクト」JICAカウンターパート研修

微生物学 教授 佐野 浩一

国際協力機構 (JICA) より (独) 国立国際医療センター総長を通して依頼のあった標記の研修を平成23年6月29日に行いました。本学と厚生労働省との人事交流で、行政に移籍した平山隆則医師 (本学

中山国際医学医療交流センター

卒業) がインドネシア共和国を対象とするこのプロジェクトのリーダーに抜擢されたことも含め、大学からの委員の派遣など通常の行政との関係を超えた感染症行政と大学との連携について予防・社会医学講座の取り組みについての研修を行うことになったものです。

研修員はインドネシア南スラウェシ州の保健局関係者10名で、平成23年6月29日中山国際医学医療交流センターの松本さんと小川課長、予防・社会学講座の白田准教授、中野准教授、青木助教のお世話で午前中に学内見学、意見交換と、「大学と感染症行政の連携」の講義を受講し、修了証を授与して、無事に研修を修了いたしました。



■韓国カトリック大学医学部への訪問について

教育センター 宮本 学



Myung-Hoon Chun 教授への表敬訪問

韓国カトリック大学医学部と大阪医科大学とは、平成22年3月4日に国際交流協定を結びました。それに則って、昨年に韓国カトリック大学から4名の学生を迎えました。今回は本学学生4名が、初めて韓国カトリック大学附属病院で3週間にわたり選択臨床実習を受けました。その間に、韓国カトリック大学医学部からの招聘で中山国際医学交流センター長 河野公一教授、医学教育センター長 米田博教授、副センター長 宮本学准教授が平成23年4月15日(金)から17日(日)まで訪韓しました。Roman Catholic Priest Chairman & CEO (Catholic Medical Center) である神父

Dong-Ik Lee 先生から両校の交流や学生交換留学制度に対して喜びと感謝の言葉を頂きました。Vice President for Health Sciences であるMyung-Hoon Chun先生からは、韓国カトリック大学は4年制のmedical schoolにしたにもかかわらず、教員の教育への意思により6年制のCollege of Medicineに戻す決定をしたことを伺い驚きました。医学部長(学長)であるJin Kim教授、医学教育講座のSun Kim教授とJoo Hyun Park准教授から本学学生の研修の様子や世界でトップである充実した施設を案内していただき、その基となる教育理念に感動しました。とりわけ、Jin Kim教授宅での夕食会で韓国と日本の医学教育の違いや韓国カトリック大学医学部の考え方に議論が盛り上がりました。韓国での問題点もあり、国家試験OSCEが導入されたために、合格率を上げるための特訓や模試に明け暮れてクリニカルクラークシップが全くできていないことなどの話もありました。今後、両校の関係をさらに深めることに努力することを誓いました。

■アジア精神保健協会所長の本学訪問について

看護学部 教授 元村 直靖



災害後の危機介入についての講演中

Amy Chang先生は、台北にあるアジア精神保健協会の所長であり、災害後の危機介入について様々な取り組みをされています。今回、第26回日本保健医療行動科学会のシンポジストとして招聘されました。さらに、本年6月9日に本学を訪問され、台湾と中国の災害後の危機介入の現状について講演していただき、中山国際医学医療交流センターにも表敬訪問されました。

平成23年度 医学会春季学術講演会

日 時： 平成23年6月15日（水）16時00分～18時00分

場 所： 臨床第1講堂

【特別講演】

『胃癌化学療法の進歩と今後の課題

～国際共同治験から学んだこと～』

大阪医科大学 化学療法センター

専門教授 瀧内 比呂也



【特別講演】

『今、求められる医療の実践を目指して』

大阪医科大学 泌尿器科学教室

教授 東 治人



研究奨励賞受賞者

リハビリテーション医学教室

羽森 貴 先生

産婦人科学教室

恒遠 啓示 先生



学長室にて：

前列左から

瀧内専門教授、竹中学長、
東教授

後列左から

上田教授、森田教授、
朝日教授

PA会総会および教育懇談会開催



平成23年度PA会総会が4月23日（土）午後2時から本学新講義実習棟において、竹中学長はじめ植木理事長、PA会会員65名の出席により開催されました。

当日の議事は以下のとおりです。

- 1) 挨拶（PA会今津会長、竹中学長、植木理事長）
- 2) 平成22年度PA会事業報告及び決算報告、会計監査について
- 3) 役員を選出について
- 4) 平成23年度の活動方針（案）について

挨拶の中で、PA会今津会長からPA会活動状況について、竹中学長から本年度の医師国家試験結果や近年

の教育内容の変化に対する大学の対策と今後の教育への取り組みについて、そして植木理事長からは、本法人の財務状況等についての説明がありました。

その後、PA会今津会長、PA会豊田次期会長のもと議事が進行されました。

総会に引き続きPA会主催の教育懇談会が開催され、米田教育センター長による挨拶の後、本学担当教員による個別教育懇談会が行なわれました。

新入生歓迎会

平成23年6月4日（土）、新入生歓迎会が学友会主催でさわらぎキャンパス体育館及び本部キャンパス文化部クラブハウス前中庭にて開催されました。

午前10時から午後4時まで、さわらぎ体育館では学生参加のフットサル大会が行われ、引続き夕方、本部キャンパス文化部クラブハウス前にて、竹中学長、花房教育機構長、荒木看護学部学生生活支援センター長の鏡割りが行われ、クラブ参加（運動部・文化部）の模擬店・学生イベント等があり、大勢の医学部・看護学部学生等にぎわいをみせました。



高槻まつりに参加しました



平成23年8月6日（土）・7日（日）に開催されました第42回市民フェスタ 高槻まつりに今年も参加しました。

さつき会（献体登録者）総会



生前委託者（献体登録者）の総会（さつき会）が5月27日（金）午後2時から、本学の新講義実習棟P101教室にて開催されました。

総会当日は、さつき会会員 約173名の出席を賜り、平成22年度成願者の御霊への黙祷を捧げたのち、竹中学長・岡村さつき会会長の挨拶、平成22年度篤志献体活動報告、霊群住職の講話、泌尿器科学教室・東教授の「尿モレについて」と題した特別講演が行われ、午後3時30分に閉会いたしました。

生前献体者文部科学大臣感謝状伝達式・ご遺骨返納法要



生前献体者に対する文部科学大臣からの感謝状伝達式が6月29日（水）午後1時から第2会議室において挙行されました。

また、これに引き続き、ご遺骨返納法要が午後2時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、竹中学長、大槻解剖学教授、解剖学教室教職員および医学部学生の参列のもとに厳かに執り行われました。式典は光松寺霊群住職の読経に始まり、40位の御霊位と献体に深いご理解をいただきましたご遺族に対して、大槻教授、学生代表が祭文を奉読し感謝の意を表しました。更に読経の中、代表焼香に続いて参列者全員が焼香を行った後、竹中学長から感謝状をご遺族にお渡しし、学生からご遺族の手にご遺骨をお返し法要を終了致しました。

平成23年度 看護専門学校特別講演会開催



日時：平成23年4月19日（火） 14：40～16：10
 演題：「格闘技チャンプに学ぶ！護身術・入門編」
 講師：（株）LEAP STAR NOB先生

NOB先生の主たる職業はスポーツクラブのプログラマーを作成すること及びその指導で…見るからに筋骨隆々でたくましい印象を受けました。前半は講義で、性犯罪から身を守るために一人暮らしをしている女性が注意しなければならないことや一人でエレベーターに乗る時の心構え、痴漢の被害を防ぐため及び実際に痴漢に遭った時の対処方法について教えていただきました。後半は、手を握られた時のかわ

し方、背後から抱え込まれたときの対処方法など2名一組になって演習しました。実際に護身術を使うことは難しいですが、反復練習で体にしみこませていけば自然に使えるようになっていくそうです。自分を守るために…演習内容を反復していきたいものです。

*** 白 友 祭 ***

平成23年 4 月23日

あいにくの天候でしたが、第6回・今年で最後となる白友祭が行われました。PR活動として今年も高槻ケーブルテレビの「街かどほっとらいん」で紹介、放映していただきました。

雨天のため参加者が少ない印象は受けましたが、近隣の方々やご家族連れの参加もあり、賑やかな1日となりました。健康相談・健康指導コーナー、模擬店、様々な体験コーナー・・・、今年の目玉は何といっても“ピアノ・ヴァイオリン・チェロの生演奏”でした。

田中和子先生のピアノ演奏と田中陽子先生のヴァイオリン演奏…さすがに姉妹とあって息がぴったりと合っていました。途中、田中陽子先生の闘病体験のお話もありました。後半はご友人の久山薫先生のチェロも加わり三重奏!!!とても素晴らしい演奏で…先生方の魂が音色となって会場内に響きわたり、客席は魅了されっ放しでした。学生達がリクエストした曲目も加えていただき、あっという間に45分が過ぎていきました。時間が許すならもっともっと演奏を聴いていたかった…そんな名残惜しさが残る演奏会でした。



沢山の方々と温かい心の交流を持つことができた1日でした。足元の悪い中ご参加いただいた方々に感謝申し上げますと共に、今年で最後となる白友祭が盛況のうちに終了しましたことに心から御礼申し上げます。

*** ナイチンゲール生誕祭 ***

平成23年 5 月6日

今年で第21回目となるナイチンゲール生誕祭は、生誕祭委員会が中心となり、1年間かけて企画運営をしました。今年は、3年生1クラスのみでお花のラッピング作業となりましたが時間内に終えることができました。午後からの式典には、附属病院から看護部長・教育担当副部長・新人教育担当師長も参加していただきました。

全員でのナイチンゲール像への献花、誓詞斉唱、聖灯拝受のあと、ナイチンゲールの業績紹介となりました。今年は、①看護の発見者、②著述家、③すぐれた管理者、④病院建築家、⑤統計学者という「ナイチンゲールの5つの顔」の紹介があり、興味深い発表となりました。その後、代表者4名が看護に対する想いを発表し、心新たにしました。

式典終了後は、附属病院に入院中の患者さまを各病棟3名程度の学生で訪問させていただきました。





「いいナースになってくださいね」と励ましの言葉をかけていただき感激している人、「生後間もない赤ちゃんを抱っこさせてもらって嬉しかった!!」と笑みを浮かべている人様々でした。

翌日、ある患者さまから感謝の言葉とメッセージが届きました。メッセージは学内で掲示させていただきました。今年で最後となるナイチンゲール生誕祭実施に際して、患者さまをはじめ、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

■主な行事日程(9月～11月)

- | | | | |
|----------|--|----------|-------------------------|
| 9月1日(木) | 看護専門学校授業開始
看護専門学校防災避難訓練 | 27日(木) | 高槻市大学交流センター事業
「市民講座」 |
| 7日(水) | 医学部教授会・診療科長会 | 11月2日(水) | 医学部教授会・診療科長会 |
| 10日(土) | 看護研究セミナー | 6日(日) | 医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第3回) |
| 13日(火) | 理事会 | 8日(火) | 理事会 |
| 14日(水) | 看護学部教授会 | 9日(水) | 看護学部教授会 |
| 17日(土) | 平成23年度第4回市民公開講座 | 13日(日) | 看護学部推薦入学試験 |
| 19日(月・祝) | 医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第1回)
看護学部入試説明会&入試対策ゼミ | 16日(水) | 医学部教授会 |
| 21日(水) | 医学部教授会 | 18日(金) | 看護学部推薦入学試験 合格発表 |
| 24日(土) | 院内コンサート | 19日(土) | 平成23年度第5回市民公開講座 |
| 28日(水) | 病院運営会議 | 30日(水) | 病院運営会議 |
| 10月5日(水) | 医学部教授会・診療科長会 | | |
| 8日(土) | 大学祭 | | |
| 10日(月・祝) | 医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第2回) | | |
| 11日(火) | 理事会 | | |
| 12日(水) | 看護学部教授会 | | |
| 13日(木) | 高槻市大学交流センター事業
「市民講座」 | | |
| 15日(土) | 解剖慰霊祭 | | |
| 19日(水) | 医学部教授会 | | |
| 20日(木) | 高槻市大学交流センター事業
「市民講座」 | | |
| 21日(金) | 関西看護学生看護研究大会 | | |
| 26日(水) | 病院運営会議 | | |



寄付金報告

■ 教育環境整備事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年3月31日から平成23年6月30日までの間の寄付金入金件数は22件、金額は46,800,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

医療法人社団汐咲会

大西 用子 松田 正一 岡崎 辰也 井野 隆弘 末方 博 嶋村 俊一 園村 哲郎
日下部末一 中尾 浩久 岡本 俊充 匿名11件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年4月11日から平成23年6月30日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は50,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年6月30日までの寄付金入金件数は24件、金額は3,533,460円です。

(敬称略)

弓場夕岐子

■ 附属病院の整備事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年4月1日から平成23年6月30日までの間の寄付金入金件数は9件、金額は3,880,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年6月30日までの寄付金入金件数は62件、金額は12,130,000円です。

(順不同・敬称略)

富士ゼロックス大阪株式会社 医療法人微風会 財団法人近畿健康管理センター 医療法人旭会(社団)
田村 勉紀 保坂 景子 匿名3件

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年4月11日から平成23年6月30日までの間の寄付金入金件数は11件、金額は670,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年6月30日までの間の寄付金入金件数は286件、金額は37,479,000円です。

(順不同・敬称略)

東京海上日動火災保険株式会社 株式会社エス・ビー・エム 医療法人毅峰会吉田病院
清金 公裕 山脇 忠昭 吉永 尚子 岡田 仁克 匿名1件

※恒常的なご寄付も「大阪医科大学基金(通称・フレンズ基金)」で承っております。なにとぞご援助賜りますようお願い申し上げます。

<寄付に関するお問い合わせ>

募金推進本部

TEL: 072-684-7243(直通) FAX: 072-681-3723 E-mail: kikin@art.osaka-med.ac.jp

■ 募金の状況

1. 新学部設置のための事業募金

平成21年1月1日から平成22年12月31日までに寄せられた新学部設置のための事業募金について総額28,291,000円のご寄付をいただきました。寄付金につきましては、下記のとおり実施いたしましたのでご報告申し上げます。皆様のご支援・ご協力に改めて御礼申し上げます。

新学部設置のための事業募金の寄付金報告

単位：円

寄附金受入額	事業への支出額	使途
28,291,000	2,000,000	「入学時特待生」給付型奨学金
	1,026,455	シラバス・学生便覧・各種実習要項等
	1,062,286	新入生オリエンテーション学外合宿費用
	8,983,800	教務システム保守
	1,125,810	看護学部ホームページ関係費
	7,971,000	平成21年度教具・標本・模型・校具・備品費支払総額39,136,000円の一部に充当
	6,121,649	次年度へ繰越
(合計) 28,291,000	(合計) 28,291,000	

2. 別館講堂「机募金」

平成20年4月1日から平成22年9月30日までに寄せられた別館講堂「机募金」について総額13,500,000円のご寄付をいただきました。寄付金につきましては、下記のとおり実施いたしましたのでご報告申し上げます。皆様のご支援・ご協力に改めて御礼申し上げます。

別館講堂「机募金」の寄付金報告

単位：円

寄附金受入額	事業への支出額	使途
13,500,000	13,500,000	別館修復完備費用296,679,000円の借入金（150,000,000円）の返済の費用として、平成18年6月1日～平成22年11月30日間の元金返済額67,500,000円の一部として寄付額13,500,000円を充当。



訃報

本学名誉教授（生理学）の今井雄介先生（78歳）が、去る平成23年7月16日（土）に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成23年5月～7月)

【理事会】

[平成23年5月10日]

一審議事項一

1. 学校法人大阪薬科大学との連携について

一報告事項一

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会・日本私立大学連盟報告
3. 学事関係報告
4. 病院関係報告
5. 歴史資料館事業報告
6. 大阪医科大学周産期医療環境整備事業について
7. 特別校賓適合者の報告について

[平成23年5月28日]その1

一審議事項一

1. 評議員の選出について
2. 学校法人大阪医科大学参与の設置に関する規程の制定について
3. 平成22年度決算案承認について
4. 平成22年度事業報告承認について
5. 大阪医科大学附属看護専門学校閉校について
6. 学校法人大阪薬科大学との連携について

一報告事項一

1. 担当理事運営会議報告
2. 病院経営改善委員会報告
3. 日本私立医科大学協会・日本私立大学連盟報告
4. 周産期医療環境整備補助金事業関係報告
5. 一般・消化器外科学の教授選考について

[平成23年5月28日]その2

一審議事項一

1. 評議員の選出について
2. 平成22年度決算案承認について
3. 平成22年度事業報告承認について
4. 大阪医科大学附属看護専門学校閉校について

[平成23年6月14日]

一審議事項一

1. 学校法人大阪医科大学事務局規程の制定について
2. 学校法人大阪薬科大学との連携について
3. 平成23年度予備費の使用について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について

一報告事項一

1. 担当理事運営会議報告

2. 大学経営改善委員会報告

3. 日本私立医科大学協会・日本私立大学連盟報告

4. 学事関係報告

5. 病院関係報告

6. 平成24年度大阪医科大学入学試験概要報告

7. アメリカの大学教授選考方法について

8. オーティー薬局について

[平成23年6月28日]

一審議事項一

1. 大阪医科大学大学院学則の一部改正について
2. 学校法人大阪薬科大学との連携について

一報告事項一

1. 私立大学等に対する補助金制度等について
2. 附属病院年度別収支概要等について
3. 自走式カプセル内視鏡記者会見について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について
5. 事務局長の任命について

[平成23年7月12日]

一審議事項一

1. 学校法人大阪薬科大学との連携について

一報告事項一

1. 担当理事運営会議報告
2. 学事関係報告
3. 病院関係報告
4. その他

【評議員会】

[平成23年5月28日]

一審議事項一

1. 評議員の選出について
2. 大阪医科大学附属看護専門学校閉校について
3. 学校法人大阪薬科大学との連携について

一報告事項一

1. 平成22年度決算報告について
2. 平成22年度事業報告について
3. 周産期環境整備事業補助金について
4. その他

【大学協議会】

[平成23年5月23日]

一協議事項一

1. 大阪医科大学新研究科設置検討委員会報告
2. 医学部・看護学部の卒業式等について

3. 健康科学クリニックでの実習について
4. 平成23～25年度医学部教員による看護学部授業科目の時間数について

〔平成23年6月10日〕臨時

—協議事項—

1. 大阪医科大学学則「別表2」の一部改正について

〔平成23年6月27日〕

—協議事項—

1. 大阪医科大学自己点検・評価報告書の作成について
2. 大阪医科大学学則「別表2」の一部改正について
3. その他

〔平成23年7月25日〕

—協議事項—

1. 大阪医科大学学則「別表2」の一部改正について
2. 学校法人大阪医科大学HP委員会委員構成(案)について
3. 新研究科設置検討委員会第1次答申について
4. その他

【教授会】

〔平成23年5月11日〕

—審議事項—

1. 外科学講座一般・消化器外科学教室担当教授の選考について
2. 人事に関する件
3. 総合教育の教授選考について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告

〔平成23年5月25日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育の教授選考について
3. 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授の選考について
4. 医学部教授会と大学院教授会の審議・報告内容の区分について
5. 学部学生の学納金滞納について
6. 医学部入試実務委員会委員長の決定について
7. 学部学生の退学願い出について
8. 学部学生からの休学願い出について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 広報・入試センター長報告

〔平成23年6月8日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育の教授選考について
3. 平成23年度奨学生推薦一覧(案)について
4. 学部学生の休学願い出等について
5. 各種委員会委員等の選出について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 教育機構長報告
5. その他

〔平成23年6月22日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育(理系・化学)担当教授の選考について
3. 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授の選考について
4. 大阪医科大学自己点検・評価報告書の作成について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告

〔平成23年7月6日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 大阪医科大学自己点検・評価組織委員会規程の一部改正について
3. 東日本大震災支援に係る積立金について
4. 大阪医科大学医学部入試実務委員会規程の一部改正について
5. 総合教育講座化学・生体分子学教室担当教授選考委員会委員について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 図書館長報告
5. 教育機構長報告

主要会議報告

[平成23年7月20日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授の選考について
3. 総合教育講座化学・生体分子学教室担当教授の選考について
4. 大阪医科大学自己点検・評価組織委員会規程の一部改正について
5. 東日本大震災支援に係る積立金について
6. 学校法人大阪医科大学HP委員会委員について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 倫理委員会報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 広報・入試センター長報告

【大学院医学研究科委員会】

[平成23年5月11日]

—審議事項—

1. 平成23年度 第1回学位申請受理可否について
2. 平成23年度 ティーチングアシスタント及びリサーチ・アシスタントの任用について
3. 平成23年度 大学院研究指導教員一覧について
4. 平成24年度以降の大学院学費検討について

—報告事項—

1. 平成23年度 研究機構共同研究プロジェクト一覧について
2. その他

[平成23年5月25日]

—審議事項—

1. 平成23年度 リサーチ・アシスタントの任用について

—報告事項—

1. 平成23年度第I回学位論文公開審査について
2. 東日本大震災に伴う医療支援について

【医学研究科教授会】

[平成23年6月8日]

—審議事項—

1. 大学院実質化に向けた今後の課題について
2. 大学院語学試験委員の選出について
3. 大学院生の学外研修について

4. 大学院生の東日本大震災支援活動について
—報告事項—

1. 新研究科設置検討委員会第1次答申について

[平成23年6月22日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院学則の一部改正について
2. 大学院実質化に向けた今後の課題について
3. 新研究科設置検討委員会第1次答申について
4. 平成23年度 ティーチングアシスタントの追加任用について

—報告事項—

1. 平成23年度 研究機構 共同研究プロジェクト追加一覧
2. 平成23年度 第1回 臨床研究教育研修会について
3. 大学院委員会委員の委嘱について

[平成23年7月6日]

—審議事項—

1. 平成23年度 第1回 学位論文審査に基づく可(合)否決定について
2. 大学院の学外研修について
3. 学外研修に伴う京都大学IPS細胞研究所との覚書締結の件

—報告事項—

1. 平成24年度 医学研究科入学試験について
2. 平成23年度第1回学位記授与式について
3. 統合講義受講に関する件
4. その他

[平成23年7月20日]

—審議事項—

1. 新研究科設置検討委員会第1次答申について
2. 大阪大学大学院医学研究科との協定に基づく研究指導の委託について
3. 研究機構研究機器センター執行責任者の指名について

—報告事項—

1. 知的財産及び利益相反に係る研修会について
2. 平成23年度第1回学位論文提出のための語学試験について
3. 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団からの各種案内について

【看護学部教授会】

〔平成23年5月11日〕

—審議事項—

1. 給付奨学金奨学生候補者の決定について
2. 外郭団体奨学金奨学生候補者の推薦について
3. 既修得単位の認定について
4. セルフトレーニングルームの移動について

—報告事項—

1. 保健師教育について
2. 教員採用について
3. 新研究科設置委員会報告について
4. 大学協議会報告
5. 各種センター報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告

〔平成23年5月26日〕臨時

—審議事項—

1. 保健師教育の選択制について

〔平成23年6月3日〕臨時

(継続審議事項)

1. 保健師教育の選択制について

〔平成23年6月8日〕

—審議事項—

1. 新研究科設置検討委員会第1次答申について
2. 大阪医科大学受験者募集プロジェクトチーム選出について
3. 医学部・看護学部合同卒業式について
4. 大阪医科大学貸与奨学金奨学生について
5. 日本学生支援機構奨学金奨学生について
6. 保健師助産師看護師変更承認申請に伴う学則の変更について
7. 看護学部改修工事概算見積依頼案について

—報告事項—

1. 海外出張について
2. 兼任教員授業科目時間数について
3. 大阪医科大学広報入試プロジェクト委員会について
4. 大阪医科大学看護学部入試実務委員会委員長について
5. 平成24年度入学試験日程について
6. 臨床実習に係る事務手続きについて
7. 大学協議会報告

8. 各種センター報告

- 1) 学生生活支援センター報告
- 2) 教育センター報告
- 3) 看護実践研究センター報告

9. その他

〔平成23年7月13日〕

—審議事項—

1. 看護研究セミナーについて
2. 認知症サポーター養成講座について
3. 学籍異動手続きについて
4. 法定感染症の罹患・罹患の疑いのある場合の出欠の取り扱いについて
5. 学生の出席に関する不正行為にともなう処分について
6. 医学部教員による科目に関する看護学部教員のコーディネーターとしての役割について
7. 看護学部改修計画概算見積(案)について
8. 看護学部改修計画拡大大委員会の設置について
9. CNS教育課程準備委員会の設置について
10. 医学部自己点検評価組織委員会へのオブザーバー選出について
11. 平成23年度設置経費について
12. 看護学部FDワークショップの講師と日程について(FD委員会)

—報告事項—

1. 実習施設に関する書類の送付について
2. 海外出張について
3. 大学協議会報告
4. 大学各種委員会等報告
 - 1) 大学経営改善委員会報告
 - 2) 予防医学研究機構設置準備委員会報告
 - 3) 中山国際医学医療交流センター運営委員会報告
 - 4) 本学附属病院との合同ミーティング報告
5. 各種センター等報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
6. その他
 - 1) 平成24、25年度保健所実習について
 - 2) 保健師教育選択制に伴う申請について

市民公開講座

平成23年度 市民公開講座

■第2回

平成23年5月21日（土）14時～ 臨床第一講堂

『循環器治療－最近の考え方－』
内科学Ⅲ・循環器内科 教授 石坂 信和

『降圧薬はどのようにして血圧を下げるのか？』
附属病院薬剤部 高橋 智恵子

『循環器疾患における日常でのセルフケア』
循環器センター 看護師長 東 典子



■第3回

平成23年6月18日（土）14時～ 臨床第一講堂

『消化器がんに対する内視鏡治療』
消化器内視鏡センター センター長 梅垣 英次

『ヘリコバクター・ピロリのお薬について』
附属病院薬剤部 小笠原 明美

『内視鏡治療前後の食事と日常生活』
消化器内視鏡センター 看護師主任 澤田 亜利香



平成23年度 市民公開講座 開催予定

回	開催日	演 題	担当	薬剤部演題	講演薬剤師
				看護部演題	講演看護師
第4回	9月17日(土)	消化器がん化学療法の 進歩	化学療法センター 講師 後藤昌弘	抗がん剤治療のつらさを抑える お薬について	細見 誠
				抗がん剤治療を安心して受ける ために	有田由美
第5回	11月19日(土)	"肺がんなんてこわくない" 肺がんの治療について	胸部外科 講師 花岡伸治	分子標的薬って何？	浦嶋和也
				肺がん手術後に日常生活で 気をつけたいこと	上田育子
第6回	12月17日(土)	前立腺がんの放射線 治療	放射線医学 教授 猪俣泰典	前立腺がんの痛みを抑える お薬との付き合い方	後藤愛実
				前立腺がんと日常生活	長嶺美奈子
第7回	平成24年 1月21日(土)	遺伝のはなし －遺伝子検査でどこまで わかる？－	臨床検査医学 講師 宮崎彩子	お薬の効く人と効かない人の 違い	山崎浩平

平成23年度 高槻市大学交流センター事業『市民講座』開催予定

開催場所：高槻市総合市民交流センター7階・第6会議室

開催日時	所 属	講 演 者
10月13日(木)16:30～	衛生学・公衆衛生学	講師 谷本 芳美
10月20日(木)16:30～	看護学部	教授 荒木 孝治
10月27日(木)16:30～	臨床治験センター	センター長 林 哲也 治験コーディネータ 原 亜由美

■第29回 特別講演会

テーマ：『医療現場におけるノン・テクニカルスキル』

講師：自治医科大学外科学講座呼吸器外科部門

教授 長谷川 剛 先生

開催日：平成23年5月6日（金）午後5時～

出席者：308名

開催日：平成23年5月12日（木）DVD上映会

午後3時～、午後5時～

出席者：189名



医療現場における安全管理の体制確保に関する特別講演会が5月6日（金）午後5時から、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、長谷川剛先生を講師としてお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者 308名の出席のもと開催されました。（5月12日 DVD上映 2回189名）

木下病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室室長の司会により、長谷川先生から『医療現場におけるノン・テクニカルスキル』と題し院内の他職種間コミュニケーションの方法として、テクニカルスキル以上にノン・テクニカルスキルの重要性、必要性に付いて講演をして頂いた。

まず最初に、自治医科大学は東京電力福島第一原子力発電所から電力が供給されており、東日本大震災発生直後に停電となった。故に自治医科大学自体が被災地であると話された。その後の原発の問題についても「原発は絶対安全」と言っていた事が、「想定外」の事態に及んでは何の根拠もない事が分かった。「想定」は人間が行うものであり、「想定外」の出来事が発生しても、その現場の状況・情報を共有した中での判断や行動が非常に重要であり、そこに双方向コミュニケーション（ノン・テクニカルスキル）が活かされる。

講演後の質疑応答においても、参加者の質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、研修終了後のアンケートでも、「3回目だがいつも新鮮な話題提供でこれからもお願いしたい」「現場でのコミュニケーションを大事にしていきたい」「分かりやすく説明していただき大変勉強になった。」「ブリーフィング（デブリーフィング）は重要であることが分かりました。」等々の意見が多く寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、大道医療安全推進部長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもと終了しました。



村尾医療安全対策室室長



大道医療安全推進部長

***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（常勤・非常勤・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

研修会へご出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDが視聴出来ますのでご利用下さい（お問い合わせ：医療安全対策室 2号館5階 内線2990）

■生物学的製剤の普及と院内結核感染対策について

感染対策室 村尾 仁

院内感染対策の中で空気感染対策を要するものには、結核、麻疹、水痘の3つがある。このうち結核は常に院内発生があり、空気感染対策の中心といえる。まず本院がこの数年間に導入した院内結核対策を振り返ってみよう。

最初は、平成17年にオープンした7号館の77病棟に2室の陰圧空調室が設置されたことである。これにより、入院中の排菌患者を速やかに隔離することが可能になった。

次は、血液で結核の感染診断を行えるクオンティフェロン（以下：QFT）の導入である。平成19年度から新採用の職員、新入生の全員にQFTを測定し、結核感染の既往の有無を評価するようになった。QFT導入は、本邦の医科系大学でも極めて先進的な取り組みであり、慶応大学に次いで実施された。もちろん院内の接触者健診にもQFTを活用し、接触者の中から感染者をよりの確に拾い上げる体制が確立された。

最後は、平成22年に採痰ブース（愛称：さいたん）を7号館一階に設置できたことである。これにより、結核患者の喀痰採取時にも徒に結核菌が院内環境に拡散するというリスクに対応できるようになった。

このように着実に結核の院内感染対策は整備されているが、ここにきて新たな脅威が発生している。それは、TNF α 阻害薬を中心とする生物学的製剤の普及である。これらの薬剤は免疫応答や炎症に関与する特定のサイトカインを特異的かつ選択的に抑制することから、目覚ましい臨床効果を発揮する。しかし副作用に感染症の合併を高める傾向があり、結核においては二次結核の発生率を有意に高めることが判明している。

大学病院には、これら生物学的製剤が使用される患者が集まるという現実があり、院内入院中の患者に結核が発症する可能性が高まると考えておかなければならない。既に本院でも、生物学的製剤使用中患者からの発症事例の増加がみとめられる。このような脅威に対応するには、数年来進めてきた対策だけでは不十分である。

何より、これらの薬剤を処方する医師は、常に結核の発症を想定していなければならない。慎重な経過観察はもちろんのこと、特に入院前には必ず胸部レントゲンの確認と喀痰抗酸菌検査を行うことが重要である。肺結核の疑いが残る患者のケアには、空気感染対策（N95マスクの装着）が実施されるべきである。

新しい脅威に対峙する職員の皆さんは、「結核感染から自らを守る最後の手段はN95マスクの装着である」という認識が大切である。そのためにも、一人でも多くの職員が正しいN95マスクの装着ができるよう、今後も感染対策室は指導強化に努めたい。



～感染対策室からのお知らせ～

感染に係る職員研修を年2回受講することは、医療法により定められています。年2回の受講に満たない方は、今後開催予定の職員研修に是非ご出席下さい。今年度は、10月に院外講師をお招きした特別講演会、11月に研修会を予定しております。出席が難しい方は、研修会終了後のDVD貸出しを感染対策室で行っておりますので、こちらをご利用下さい。

感染対策室（内線2780/2939）

■大学安全対策室からのお知らせ

大学安全対策室 室長 河野 公一

昨年6月に薬品管理小委員会によって作成された「化学物質等管理取扱手引き」は毒物・劇物の取り扱いが中心でしたが、この度、毒薬・劇薬、麻薬・向精神薬、危険物の取り扱いの項目を追加改訂いたしました。この改訂された手引きについて、6月27日および28日に各責任者や研究者等へ説明会を開催いたしました。

また、感染対策小委員会によって「新型インフルエンザ対策行動計画」が作成されました。これは、近い将来出現するとされる鳥インフルエンザウイルスへの罹患者・死亡者を最小限に抑え、国や大阪府等行政の行動計画および指針に沿って、大学が果たすべき教育・研究・社会貢献への影響を可能な限り少なくするために作成されたものです。なお、この「新型インフルエンザ対策行動計画」は、大学安全対策室のホームページより閲覧が可能です。

大学安全対策委員会において設置当初の目的がほぼ軌道に乗りましたので、今後のさらなる大学構成員の安全を確保するために、実務的な検討を行う「在り方検討小委員会」が設置され、本学における「安全」の対象や講じるべき対策等について具体的な検討に入っています。

研究室の安全管理検討委員会では、「研究室の安全基準チェックシート」を作成しました。

*実施した研修会のDVDを貸し出していますのでご利用ください。

【連絡先】 大学安全対策室（総合研究棟1階）内線3404、3405
E-mail sps000@art.osaka-med.ac.jp
URL www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

大学安全対策委員会
「大学安全対策委員会－在り方検討小委員会」設置
薬品管理小委員会
平成23年度化学物質等管理責任者および保管責任者の選出
化学物質等管理取扱手引き 改訂
手引き改訂に伴う説明会の開催（6月27日、28日）
感染対策小委員会
「新型インフルエンザ対策行動計画」作成

病院ボランティアのご紹介



今回は、エコキャップ回収事業へのボランティアさんの関わりを紹介いたします。

患者さま、教職員、学生の皆様に集めていただいたエコキャップは、ふれあいメンバーが洗浄を行ない、シールを剥がすなどキャップ本体のみを綺麗な状態にして箱詰めにします。その後、NPO法人 e-kotonet (<http://e-kotonet.org/>) に回収を依頼します。

ペットボトルのキャップ400個をゴミとして捨てると3,150gのCO₂を排出します。このキャップをリサイクルすることによって、環境にやさしく、世界の子供たちにワクチンを支援することが出来ます。

キャップは400個で10円になります。ポリオワクチンは20円！800個で一人の命が救えます。

平成23年6月末までの累計で1,228人分のワクチンを届けることができました。

これからも、ご協力お願いいたします。

保健管理室からのお知らせ

■第2回管理職のためのメンタルヘルス研修会を開催しました



講師 山田尚登 先生

「メンタルヘルスにおける睡眠の役割」

講師：山田尚登 先生

(滋賀医科大学精神医学講座 教授)

日時：平成23年 6月 9日 (木)

17:00～18:30

6月9日に管理職のためのメンタルヘルス研修会を開催し、山田尚登先生（滋賀医科大学精神医学講座 教授）に「メンタルヘルスにおける睡眠の役割」についてご講演いただきました。管理職以外も含めて約85名の参加者がありました。

研修会では、睡眠について基本的な知識やストレス・睡眠障害・うつ病、生活習慣病が相互に強い関連があることを分かりやすくご講義頂き、快適な睡眠を十分とることは、こころの病気だけでなく、高血圧、糖尿病、心臓疾患など生活習慣病の予防にも効果的であること、睡眠の大切さを改めて感じました。

本学では多忙による短時間睡眠や交代勤務など、生活リズムを崩し、睡眠の質、量ともに悪くなりやすい職員が少なくありません。睡眠不足や睡眠障害等は注意・集中力困難、記憶力や思考力の低下を生じ、業務ミスや事故につながりかねません。快適睡眠の確保は、健康的な生活だけでなく職場の安全管理という点でも非常に重要なこととなります。

職場のメンタルヘルス対策において、管理職は重要な役割を担っています、今回の研修で学んだことを日頃のスタッフ管理にも役立たせていただければと思います。



挨拶 保健管理室室長 上田昇一 教授



司会 保健管理医 米田 博 教授

DVDの貸し出しについて

今回の研修会のDVDを貸し出ししています。希望される方は保健管理室までお申し出下さい。

■学生定期健康診断を終えて

4月～5月に医学部・看護学部学生、大学院生、看護専門学校学生の平成23年度定期健康診断を実施しました。医学部学生の未受検者が数名いますが、看護学部学生、大学院生、看護専門学校学生については、全員が受検しました。

有所見者については学校医の判断に従い、再検あるいは受診の勧奨、生活指導を実施しています。尿酸値、脂質値での所見が目立ち、食事などを中心に保健指導を実施しました。

■特定業務従事者健診、特殊健診、長時間労働者健診について

平成23年度特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診、および長時間労働者健診を5月25日（水）～27日（金）に実施しました。有所見者には産業医の判断に従い、再検や受診勧奨を行いました。

また労働安全衛生法により、長時間労働者（月100時間を超える時間外・休日労働）に対して医師による面接指導を実施することが義務付けられています。本学では労働安全衛生法で定められた基準に加えて、“月45時間を超える時間外・休日労働で産業医が必要であると認めた場合”という基準を設け、長時間労働者への健康診断、及び面接指導を実施しています。希望される方には産業医による相談を受けることができますので、ぜひご利用下さい。

長時間労働は仕事による負荷を大きくするだけではなく、睡眠・休養機会を減少させ、疲労蓄積の原因となり、心身の健康障害のリスクを高くすると考えられています。今回の健診を契機に生活習慣を振り返ってみましょう。

■平成22年度特定健康診査について

平成20年度より「高齢者の医療の確保に関する法律」（平成20年4月施行）に基づいて、40歳から75歳未満の医療保険加入者等（任意継続加入者及び被扶養者を含む）を対象に特定健康診査及び特定保健指導を実施してきました。これは内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防を目的としています。

平成22年度の対象者には5月半ば頃に、日本私立学校振興・共済事業団より結果が配布されています。結果が「特定保健指導の対象」とあった職員の方で、まだ指定医療機関で保健指導を受けていない場合は、早目に受診して下さい。また保健指導の対象でなかった方でも、これを機会にご自身の生活習慣を振り返り、生活習慣病の予防や健康管理に注意して下さい。

平成23年度インフルエンザワクチン接種申込が始まります！

医学部・看護学部学生、及び医療従事者はインフルエンザに感染する可能性が高い集団であるとともに、患者様にインフルエンザを伝播する可能性が高い集団であることも十分認識する必要があります。

ここ数年、医学部1年生、2年生の接種率が低くなっています。予防の基本はワクチン接種です。流行時期前（11月頃）のワクチン接種が有効です。インフルエンザ予防のためワクチン接種されることを強くお勧めします。

インフルエンザワクチン接種の申込受付を9月中旬から開始致します。詳細は決まり次第ご案内致しますので、希望される方は申し込んで受けて下さい。

ワクチンの管理の問題上、申し込みされた方のみ準備しますのでご注意ください。

■第13回 高槻ジャズストリートの会場として利用されました

高槻市では、平成11年より毎年ゴールデンウィークの2日間にわたり、阪急高槻市駅・JR高槻駅周辺の会場においてジャズの演奏が行われる高槻ジャズストリートが開催されております。

その主催者である高槻ジャズストリート実行委員会(市民ボランティアが企画・運営)と高槻市(後援)より会場の一つとして本学別館(歴史資料館)を利用したい旨の依頼があり、下記の日程にてミュージシャンによるワークショップ等が開催されました。

日 時：平成23年 5月3日(火・祝)、5月4日(水・祝)

13:00~17:00(両日共)

場 所：別館3階 講義室

入場料：無 料

来場者：合計 約650名



【 歴史資料館展示資料恵与者 】

平成23年1月1日から平成23年6月30日までに1名の方(別表)よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

(敬称略)

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H23.5.27	西村 静枝	講義ノート(薬理学)、OSAKA医科大学 生新聞 第31号、その他111点	故西村重雄(高医 昭和 16年卒)夫人

◆大阪医科大学俳句会(五・六・七月)

著莪の雨欄千崩る行者宿	粽添へ誕生祝の包金	白波を追ふも白波夏立ちぬ	銭亀売下校時刻の公園に	一畝の一籠ほどの茶摘かな	葉桜の西向日町途中下車	錠剤の一粒大事雲の峰	ハンモツク目線は湖に山遠み	新開地空を取り合ふ鯉幟	茶摘歌笑ひ上手の長寿村	鴨足草天守を仰ぐお菊井戸	藍壺に雲浮かびけり梅雨晴間	赤瓦濡れて琉球梅雨入かな	ハンモツク竝びみて手のとゞかざる	聖堂へ矢印のある若葉かな
谷口文子	羽根美恵子	寺田千代子	同	宮脇芳美	同	美濃 眞	同	飯塚久子	同	吉田孝江	同	中川一成	同	山崎隆司

心臓外科医・須磨久善先生の公開講座を開催致します

第43回日本臨床分子形態学会総会・学術集会を平成23年9月9日(金)、10日(土)の2日間にわたり大阪医科大学にて開催することになりました。今回の学術集会のテーマは「基礎と臨床の架け橋」です。9日(金)に本学術集会の後、大阪医科大学主催(日本臨床分子形態学会共催; 臨床第1、2講堂)で公開講座を予定しています。本学の出身で世界的に著名な心臓外科医・須磨久善先生(ドラマ「医龍」監修)をお迎えし、「Creative Mind」と題して興味あるお話が聞けるものと思います。学生、教職員や卒業生の皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

第43回日本臨床分子形態学会総会・学術集会
会長 大槻 勝紀



公開講座

日時：平成23年9月9日(金)午後5時～

場所：大阪医科大学 臨床第1講堂
臨床第2講堂(中継)

講演タイトル「Creative Mind」

財団法人心臓血管研究所スーパーバイザー
順天堂大学医学部客員教授
京都大学医学部臨床教授
大阪医科大学アドバイザー

須磨 久善

略歴

- 1974年 大阪医科大学卒業
卒業後、虎の門病院、順天堂大学での外科研修を経て1983年より大阪医科大学で冠動脈手術に着手し、胃大動脈瘤グラフトの使用を開始。
- 1989年-1994年 三井記念病院循環器センター(1992- 心臓血管外科部長)
- 1994年-1999年 ローマ・カトリック大学心臓外科客員教授
- 1999年-2000年 津南鎌倉総合病院心臓外科部長(1998- 院長)
- 2000年-2005年 葉山ハートセンター院長
- 2005年- 財団法人心臓血管研究所スーパーバイザー

主催：大阪医科大学
共催：第43回日本臨床分子形態学会総会・学術集会

お問い合わせ先：TEL072-683-1221 内線2633

● 大阪医科大学健康科学クリニックが 日本人間ドック学会に認定されました ●



大阪医科大学健康科学クリニックは、平成23年3月31日に行われた人間ドック健診施設機能評価委員会による訪問調査を受審し、『人間ドック健診施設機能評価委員会が定めた基準を満たし、認定に値する』という評価を受けました。

訪問調査日 2011年3月31日

認定番号 277

認定開始日 2011年5月28日

認定満期日 2016年3月31日

表紙絵：夏を彩るお茶花（ベル鉄線、なでしこ、ききょう）

京都祇園祭りの用意が始まる頃、古来から京都祇園祭りを飾るアヤメ科の檜扇（ひおうぎ）をもとめて三条界隈の花屋を訪れた。

「この時期のお茶花は」と聞くと、店主が差し出したのは「はなとらのお」、「ベル鉄線」、「なでしこ（大和撫子ではない）」、「ききょう」である。質素な雰囲気ながらもどこか上品を感じさせ、涼やかな花である。花期はいずれも夏期から秋であるが、秋の七草のイメージが強く、なぜ夏を飾るお茶花なのか勉強不足でわからない。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第89号

発行年月 平成23年8月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>